

# 2025 年度 事業報告書

(ホームページのみ掲載分)

|     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| 13  | 組織別の活動状況             |    |
| (1) | 会議等                  | 2  |
| (2) | 委員会の活動               | 2  |
| (3) | 部会の活動                | 14 |
| (4) | 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動 | 27 |
| (5) | 関東甲信地域の県支部の活動        | 45 |

## 2025年度 事業報告書ホームページ掲載 一般事業

### II 13 組織別の活動状況

#### (1) 会議等

定款に規定する会議を次のとおり開催した。

##### 1) 総会

第 67 回定時総会を 6 月 16 日に開催した。

##### 2) 理事会

理事会を 7 回（うち臨時理事会 1 回）開催した。議題及び理事会において審議または報告された規程類の制定・変更の内容は付属明細書を参照。

#### (2) 委員会の活動

##### (a) 常設委員会

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、常設委員会相互の連絡及び調整のため、常設委員長会議を 6 回開催した。会議の開催状況及び審議事項等並びに各常設委員会等の開催状況は付属明細書を参照。

##### 1) 倫理委員会

綱領、啓発及び情報の 3 小委員会により活動した。主な活動は次の通りである。

- ① 新・技術士倫理綱領が 2023 年 3 月 8 日に理事会の承認を得て正式な発効に至ったので、新・技術士倫理綱領、手引きの周知、啓発のための活動を継続した。
- ② 倫理事例集については、新たに創作事例を 1 件作成し、当会ホームページに「最近の技術者倫理事例」として公開した。さらに、創作事例 3 件の作成を継続するとともに、今年度から実際に発生した事例の収集および編纂にも着手した。
- ③ 「技術士倫理綱領の手引き」への導入資料として、「手引きの手引き（仮称）」と位置づけた簡易版の技術士倫理解説資料の作成を開始した。本資料は、技術士会イベント等での配布を通じ、技術士倫理の普及啓発および倫理委員会の活動紹介に活用することも想定している。
- ④ 今後の社会環境および技術の変化に対応した技術士倫理の検討に資するため、関連キーワードの調査・収集を開始した。
- ⑤ 第 16 回技術者倫理シンポジウムとして、2025 年 5 月 16 日（金）に「ジェンダー平等と技術者倫理－人材育成の可能性を広げるために－」をテーマとして機械振興会館及びオンラインにて開催した。第 17 回目は 2026 年 5 月 13 日（水）に「インフラマネジメントと技術者倫理－技術の意義と技術士・技術者の役割とは－」をテーマとして機械振興会館とオンラインでのハイブリッドにて開催予定で準備を進めている。
- ⑥ 新しい CPD 登録制度導入に伴い、P e ラーニング（記述式）で公開するコンテンツの検討を行い、コンテンツの拡充を検討した。さらに、2025 年度に作成したコンテンツ 10 本の CPD 時間の算定について協議・検討した。
- ⑦ 第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）の行事として「技術者倫理情報連絡会」を開催し、倫理委員会の活動報告、各地域本部や技術者倫理研究会の活動紹介・意見交換を行った。
- ⑧ 月刊「技術士」に、「技術者倫理シリーズ」10 編を掲載した。また、広報委員会との合同検討会議を 2～3 か月ごとに開催し、本シリーズの掲載内容及び今後の執筆者選定方

針等について協議検討を行った。

- ⑨ 日本工学会「技術倫理協議会」に委員を派遣し、加盟する13学協会との情報交換を継続した。また、2025年12月8日（月）の第21回公開シンポジウム「社会受容性のあるAIエージェント実現に向けた倫理」に委員が副議長、幹事として参加した。

## 2) 総務委員会

諸制度の検討、規則、諸手引きの制定、改訂、廃止の検討並びに会員による活動グループの管理等を行った。主な内容は次の通り。

- ① 2025年度新名誉会員、フェロー、会長表彰者の審査及び推薦を行った。
- ② 活動グループの登録申請および活動報告書を確認し、問題ないものについて理事会に報告した。
- ③ 昨年度に引き続き、地域本部関連事項検討小委員会を継続し、地域本部からの提案事項などに対して検討を行った。
- ④ 関東甲信地域県支部との連携のため、県支部活動検討小委員会を設置し、「関東甲信地域県支部長会議」、「関東甲信8県支部連携検討グループ会議」を開催した。また、昨年引き続き関東甲信県支部の合格者祝賀会・年次大会への総務委員会委員の参加も継続して実施した。
- ⑤ 常設委員会等から依頼のあった諸規則の制定、変更、廃止について審議し、助言を行った。
  - ・ 役職員倫理規則（コンプライアンス規則）
  - ・ 技術士CPD行事の講演内容等のウェブ配信、収録及びウェブ掲載に関する規則・手引き
  - ・ eラーニングに関する規則・手引き
  - ・ DEI委員会の設置・運営規則
  - ・ 技術士CPD実績管理委員会の設置・運営規則
  - ・ 技術士資格活用委員会の設置・運営規則
  - ・ 地方整備局技術評価支援活動に関する手引き
  - ・ 総務委員会の議事録作成に関する手引き
  - ・ IPD関連規則（委員会運営に関する規則、統括本部事務局組織に関する規則等）
  - ・ CPD行事のウェブ配信補助費に関する手引き
  - ・ 補助費運用に関する規則
  - ・ 役員候補者選出選挙規則

## 3) 企画委員会

- ① 2026年度事業計画及び収支予算編成方針を策定した。
- ② 2026年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、各委員会等からの計画案をもとに策定した。
- ③ 収支予算管理に関する手引きについて、記載内容に不明確な点があったことから、改定案を検討した。
- ④ CPD行事のウェブ配信補助費を廃止することを審議・決定した。
- ⑤ 各委員会等からの主な期中予算申請や対外活動計画に係る審議は、以下のとおり。
  - ・ 研修委員会・制度検討委員会からの、IPDスモールスタートに向けた第1段階のシステム構築費等について承認した。
  - ・ 2025年度対外活動計画について、DEI委員会（技術サロン開催、DEI鼎談、広報等）

や経営工学部会（セミナー開催）等からの申請を承認した。

- ・ 関東甲信 8 県支部の 2026 年度対外活動計画について、調整を行い、承認した。
  - ・ 各委員会・部会・県支部からの対外活動促進費の申請について精査の上、承認した。
- ⑥ 各種補助金および経費支出申請に対して、手引きに基づき審査した。
- ・ 現役若手世代技術士 CPD 行事補助費については、5 県の申請があり、承認した。
  - ・ WEB 配信奨励金申請は、3 件の申請があり、承認した。
  - ・ 対外活動促進費は、6 件の申請があり、承認した。
  - ・ 期中申請は 7 件あり、コメントを付記して承認した。
  - ・ 講演会・見学会補助費は、3 件申請があり、手引きに合致する部分限定で承認した。
- ⑦ 会員拡大施策については以下の活動を行った。
- ・ 今後の HP 改定方針や考え方（CPD、IPD、部会・地域本部連携など）を整理した
  - ・ 賛助会員拡大方策策定に向け、アンケート実施の検討を行った。

#### 4) 研修委員会

本委員会は、継続研鑽小委員会および技術系人材育成小委員会から構成される。主な活動内容は以下のとおりである。

- ① CPD 行事の講師から許諾を得るための複数の規則・手引きについて、重複部分の統合および規則廃止の整備を行った。また内容を現状の運用に沿った記載に改めた。
- ② Pe ラーニング受講実績を技術士 CPD に計上する場合に回答時間を加えて計上できるよう、視聴証明書の記載を変更した。
- ③ IPD スモールスタートに際して、IPD 行事向け CPD 関連規則 準用規程を作成するとともに様式「講演内容のウェブ配信及び e ラーニングに関する了承願」に「IPD 登録システム利用者」を追記した。
- ④ IPD 事業の概説ページ「IPD コーナー」を新設した。「IPD 活動実績の WEB 登録、WEB 登録用アカウントの取得方法」、「CPD (IPD) 行事の予定閲覧・参加申込み」等について説明するもので、各サービス実行処理画面へのリンクを設けた。
- ⑤ IPD 事業スタートの案内チラシを作成し、第一次試験合格者へ配布した。今後は合格者歓迎会・ガイダンス等でも配布する。
- ⑥ 修習ガイドブック第 3.1 版を 6 月に公開した。
- ⑦ 本会の各地域組織が、大学・高等専門学校等を対象とした技術士資格の広報イベントを実施するための仕組み「技術士をしろう」の整備にあたり、東京都市大学、名古屋工業大学の 2 校でトライアルを実施した。トライアルの参加者アンケート結果を分析するとともに、今後、仕組みを整備してゆくうえのガイドラインづくりを開始した。
- ⑧ 修習技術者支援・人材育成について、関連委員会・地域組織との連携強化として、前年度実施の IPD 懇話会アンケート結果、本会が提供する修習技術者等への支援について PC15 要素に従った分類も含めて整理・分析を開始した。このため地域本部の青年委員会・修習委員会・CPD 行事担当委員会に対して「地域本部活動の分析への協力依頼」を発信した。
- ⑨ 第 53 回技術士全国大会の会場、大会テーマ等基本事項の検討を行った。研修委員会の幹事会メンバーを第 53 回技術士全国大会運営委員会の基本検討小委員会委員と選任した。

#### 5) 広報委員会

月刊『技術士』の発刊は、2 チーム編成により、記事の企画、執筆者の選定、原稿の入稿

管理、原稿の校正、印刷業者との調整を行い、毎号の刊行を計画通り遂行した。外部広報は、広報委員全員で検討を進め、具体的な戦術の実施に至った「J-STAGE への月刊技術士選定論文の掲載」および「技術士認知度向上を目指した PRTIMES への技術士活動掲載」を行った。

ホームページは、定性的ではなく、GoogleAnalytics による分析から出てきた定量的なデータに基づき、改善・評価を行った。また、他の委員会と連携した広報活動を進めた。今期実施した主な活動は、次の通り。

- ① 会報誌月刊『技術士』の企画・編集・発行（月1回）を行った。そのうち下記の2回の特別号を発行した。
  - ・ 2025年7月号：トピックス「環境変化・異常気象対策技術」
  - ・ 2026年1月号：トピックス「医療における工学技術（医用工学）特集」
- ② 今後より多くの方に月刊『技術士』への投稿を気軽に、かつ積極的に行っていただけるよう、「論文の書き方」をテーマに、執筆を平易にするためのコツやポイントを3回にわたり連載でご紹介した。
- ③ ホームページ改善を行った。GoogleAnalytics によるアクセス分析を行い、注目度の高いサイトにコンテンツを集めるなどして、当会の取り組みが今まで以上に会員や一般の方々に伝わるよう、ホームページを改善した。月刊『技術士』の記事のオープンアクセスを専門とした非会員向けページは、この改善により、2024年12月に60人程度だった1月当たりのアクセスユーザー数が、最高で1999人にまでアクセス数を伸ばした。
- ④ 外部広報は、広報委員全員で検討を進めていた J-STAGE への掲載を本格化し、広く論文を公開した。また、広報委員会の傘下に PRTIMES 掲載記事支援を専任とするワーキンググループを発足し掲載した。

## 6) 社会委員会

本委員会を構成している「司法支援小委員会」、「広報小委員会」の2小委員会及び「工事監査支援ワーキンググループ」において、以下の活動を行った。また、「防災支援委員会」、「科学技術振興支援委員会」、「技術士活性化委員会」の3実行委員会とも連携し活動支援を行った。

- ① 「司法支援小委員会」は、例年通り裁判所から専門委員等の推薦が依頼された。そこで、推薦手順に従って技術士パーソナルDB登録者の中から依頼内容に沿った適任者を選定し推薦した。2025年度の依頼件数は1件であった。近年の傾向として、裁判所からの推薦要件は、専門性が高度化している傾向が見られることから、引き続き個々の技術士の有する専門技術が活かせるようにDBへの登録事項の改善、並びに登録促進を募る必要が生じている。そこで、会員各位に対して司法支援活動の理解や協力依頼を目的とした「第7回司法支援講習会」を2026年2月25日に開催した。
- ② 「広報小委員会」は、日本技術士会会員の社会貢献活動を広く一般に周知し、技術士の地位向上に資するため、「第14回社会活動事例発表会」を2025年5月30日に開催した。
- ③ 「工事監査支援ワーキンググループ」は、本会に依頼された13自治体の工事監査を実施した。
- ④ 「第1回チーム社会委員会」を2026年3月6日に開催した。  
社会委員会、防災支援委員会、技術士活性化委員会、科学技術振興支援委員会、工事監査支援ワーキンググループ、防災支援対外活動ワーキンググループでの合同会議を

「チーム社会委員会」と称して、各委員会、各ワーキンググループの活動紹介、テーマ毎のグループ討論などを実施した。

## 7) 国際委員会

- ① IEA総会が6月8日～13日にメリダ（メキシコ）にて開催された。本年度は、6年毎に実施される日本のAPECエンジニア、IPEA国際エンジニア登録制度に関するIEA監査への対応があった為、国際委員会IEA対応WGが事務局の支援を受けて対応を行った。その後、IEA総会にて会員継続審議され、6年間の継続が承認された。
- ② APECエンジニア・モニタリング委員会は文科省他関係9省の申合せに基づき設置、委託を受けて本会が行っている。今年度は新規43件、登録更新134件が所定の要件を充足するとされ、合計748件の登録数（見込み含む）となった。
- ③ IPEA国際エンジニアは新規20件、登録更新46件が登録数（見込み含む）は274件となった。
- ④ IEA対応WGにて昨年度実施したGAP分析に基づきAS（Assessment Statement）の改訂案を作成した。
- ⑤ 国内の技術士制度ならびにAPECエンジニア審査、IPEAエンジニア審査における、IEA Graduate Attributes and Professional Competencies（GA&PC）第4版への対応方針について検討を行った。さらに、GA&PC第4版とのGAP分析および対応方法の検討結果を踏まえ、Assessment Statement（AS）改訂案を作成し、APECエンジニア/IPEAエンジニア・モニタリング委員会に提出した。本改訂案は、2026年6月にIEAへ提出する予定である。
- ⑥ 技術士の海外活動における行動特性を把握することを目的として調査を実施した。その結果、グローバルに活躍する技術士には、「専門的学識 × コミュニケーション × マネジメント」の三要素が重要であることが確認された。語学力については、必ずしも高水準を必須とするものではなく、それ以上に、信頼関係構築力、異文化理解力、オープンマインドといった姿勢・行動特性が、海外活動の成否を左右する重要な要因であることが明らかとなった。また、短期であっても海外経験を有することは、技術士としての視野拡大や成長に大きく寄与することが示唆された。
- ⑦ 海外機関との既存の協定（日豪APECエンジニア2国間協定、英国機械技術者協会や韓国技術士会）、覚書に基づく企画などの検討と国際活動の促進
- ⑧ 連携活動の実績がない中国科学技術交流センター（CSTEC）とのMoUについて更新の議論を慎重に行った結果、2026年1月の期限をもって自動更新しないことで、CSTECと合意に至った。
- ⑨ 国際協力機構、日本貿易振興機構などが実施している専門家派遣などへの支援及び協力関係の構築と、パーソナルデータベースなどの運用による会員への情報の提供を目的として、講習会を企画・実施した

## (b) 実行委員会

### 1) CPD 支援委員会

会員のCPD推進を支援すべく講演会、研修会、発表会等を企画し運営・実行する役割を担う。毎月委員会を開催し、計画、準備、実施、反省のPDCAを廻している。2025年度の主な活動実績は下記のとおり。

#### ① CPD ミニ講座（4/21、6/9、6/25）

本年度に3回開催し、参加者計466名。全てWEB配信で開催した。詳細は附属明細書

を参照。

② 技術士第二次試験合格者研修会 (5/17)

機械振興会館 B2 ホール+WEB 配信 参加者(合格者) : 125 名

第二次試験合格者へ黒崎会長より歓迎の挨拶をいただいた後、眞先事務局長から「技術士制度と日本技術士会の概要」、塩原倫理委員長から「技術士と技術者倫理」、石田研修副委員長から「技術士 CPD 概要」の講演がなされ、合格者からの質疑に応じた。また、当委員会の中原委員から「活躍している技術士が必ずやっている事はこれ!!」の合格祝賀講演がなされた。研修会後に、機械振興会館 6 階の会場にて合格者と部会関係者の交流会を実施した。

③ CPD 発表会 (12/20) WEB 配信 参加者 : 278 名

本年度の全体テーマ「人材育成・技術継承」

技術士活動の業績・研究発表の場として開催。論文応募 13 名のうち 10 名の発表者を選抜し、CPD 発表会を実施した。発表時間 15 分、質疑 5 分

④ 新春記念講演会 (1/28) グランドヒル市ヶ谷・芙蓉+WEB 配信 参加者 : 178 名

「年頭の辞」黒崎会長、記念講演「誰でも宇宙で活躍できる社会を目指して～新たな産業界との連携～」株式会社ロケットリンクテクノロジー代表取締役社長 森田泰弘氏、「閉会の辞」松山研修委員長

2) 修習技術者支援委員会

修習技術者に対する IPD (初期専門能力開発) 活動を支援する各種研修の提供を目的として「修習技術者研修会」及び「修習技術者発表研究会」を行った。

① 修習技術者研修会 (9 回)

基本修習課題である「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の理解と習得を目指した研修を企画・実行した。主な取組みは、「修習ガイダンス (4 月)」「IP7 エンジニアリング活動のマネジメント」「資質・能力「倫理」」「技術活動のマネジメント」「業務遂行能力 (コミュニケーション)」「(2 回)」「資質・能力 (問題解決事例研究)」「IP5 問題分析、IP6 解決策のデザインと立案」(2 回)である。

研修会は午後 1 時から 5 時までを基本とし、当委員会委員、技術士会会員有識者及び外部有識者を講師として、前半に講演、後半に講師からのテーマ提起に基づくグループワークによる研究・討議を行い、その後グループごとに発表と質疑応答を行う。これを通してコンピテンシー獲得・向上を目指すとともに将来技術士として活躍する上での基礎を築く。

2022 年度から WEB (Zoom) +会議室のハイブリッド方式で研修会を開催中。

② 修習技術者発表年次全国大会 (1 回)

修習技術者によるプレゼンテーションの場であり、本年度は近畿本部メイン主催で本会場+統括本部サテライト会場&WEB (Zoom) 形式で行った。統括本部、近畿本部、中部本部、中国本部、及び四国本部から選出された、優秀な修習技術者及び学生 5 名によるコンピテンシー重視のプレゼンテーションが行われた。ルーブリック評価により最優秀者 1 名、優秀者 4 名が表彰された。

③ インフラテクコン 2025 技術士会賞・特別賞選定及び受賞チームによる発表 (1 回)

インフラテクコン 2025 は、全国の高専から 32 チームが参加し、コンテストが実施された。日本技術士会では、優れた 3 チームに日本技術士会賞および特別賞を授与し、2026 年 3 月に受賞チームのうち 2 チームによる Web プレゼンテーション、質疑応答及び技術士とのパネルセッションを開催した。賞選定にあたり、各部会、地域本部から

推薦を受けた14名でワーキングチームを構成し2025年10月～2025年12月にかけて厳密な審査を行った。

### 3) 青年技術士支援委員会

45歳以下の技術士・技術士補・修習技術者を対象とした研鑽事業を定期的実施した。

- ① 技術士のコンピテンシー（問題解決力、コミュニケーション、リーダーシップ等）の向上を目的とした、アウトプット型の研鑽 CPD 行事を定期的開催した。参加者同士の対話や実践的なグループワークを取り入れ、実務や自己成長に直結する研鑽活動を目指し、以下の企画運営を行った。
  - ・5月度：リーダーシップ×フォロワーシップの理解と実践
  - ・7月度：ディベートで学ぶ論理的思考入門
  - ・9月度：本質を見抜く”問い”～課題設定入門
  - ・11月度：行動経済学で切り拓く、新しい価値創出
  - ・12月度：“振り返り”で未来を拓く！リフレクション（内省）技法
  - ・2026年2月度：三大思考法（ロジカル・ラテラル・クリティカル）の体系的理解また、当委員会の公式ホームページや Facebook にて活動紹介、主催行事の広報および報告を積極的に行った。CPD 行事の開催案内及び開催報告についてはプレスリリースを行い、技術士の知名度向上に貢献した。
- ② 合格者交流会では、令和4年度以降の第1次・2次試験合格者及び JABEE 認定者（いずれも45歳以下に限定）を対象に合格者同士の人脈形成を支援するとともに、技術士会への入会並びに青年技術士支援委員会への参画（地域本部同士の交流の活性化も含む）に向けた導線強化を図ることができた。
- ③ 拡大委員会2025においては、全国の青年委員会との意見交換及び交流を目的とし、総会、地域本部活動報告及び懇親会、テクノツアーを実施した。本企画に合わせて、令和6年度活動年鑑を制作し、関係者へ当委員会の活動について周知を行った。

### 4) 技術士活性化委員会

「基礎研修小委員会」及び「業務支援小委員会」の2小委員会により活動した。

主な活動は、次の通りである。

- ① 技術士開業研修会を開催した。
  - ・入門コース…2025年10月21日にオンライン配信と会場とで開催し、計94名が参加した。
  - ・実践コース…2025年11月21日・22日に会場とオンラインのハイブリッド形式で開催し、計19名が参加した。
- ② 「技術支援基礎講座ープロジェクトマネジメント革新ープロジェクト成功の条件を学ぶ」を2025年6月24日にオンラインおよび会場にて開催し、イノベーションマネジメント（株）の代表で経営学博士を講師に招いて開催した。201名の参加があった。
- ③ 「プログラムマネジメント実践セミナーー経営デザインを応用した技術士業務への期待ー」を2026年3月19日にオンライン配信により開催し、国の取組みについて日本プロジェクトマネジメント協会、内閣府及び日本知財学会を講師に招き会員を対象に開催した。150名の参加があった。
- ④ 「地域のカーボンニュートラル基盤整備支援研修会」を2025年8月26日にオンラインで実施し、197名の参加があった。

- ⑤ 「知的資産経営と知財教育」に関する基礎研修講座を2025年9月23日に会場とオンラインのハイブリッド形式で開催し、計95名が参加した。
- ⑥ コラボレーションセミナー「中小企業支援」（協賛：中小企業支援グループ）を2026年1月23日に会場とオンラインのハイブリッド形式で開催し、計177名が参加した。
- ⑦ 外部から依頼された技術士紹介業務について22件の依頼があった。技術士パーソナルDBに登録されている技術者に業務紹介を行い14名を紹介した。
- ⑧ 技術コンサルタントガイドブック第6版を作成し、2025年4月に日本技術士会ホームページ上で公開、会員が閲覧可能とした。

## 5) 防災支援委員会

通常時の活動と大規模自然災害発生後の活動について、以下を実施した。

- ① 災害被害を軽減する活動への支援
  - ・ 第21回全国防災連絡会議(9/1)を開催し、約250名の参加者とともに「大規模災害発生後における技術士会の活動と連携」をテーマとして討議を行った。
  - ・ 関東甲信県支部の防災連携を強化するため、8/1に第9回関東甲信県支部防災連絡会議を開催し、関東甲信県支部長、防災担当の参加を得た。
  - ・ 墨田区災害復興支援組織や災害復興まちづくり支援機構などの活動を継続して参加し、ている。
- ② 地域コミュニティ防災への支援
  - ・ ぼうさいこくたい（新潟）に北陸本部とともに企画・出展（展示、ワークショップ）した。今年から愛子内親王殿下が参加する大きなイベントに昇格した
  - ・ R7年度文部科学省こども霞が関見学デーに、「技術士に挑戦－実験で再現して学ぶ災害の危険性－」をテーマに、企画、出展した。
  - ・ 災害復興まちづくり支援機構の一員として首都防災ウィークに参加、防災クイズ、相談会を中心とする屋外展示を実施した。
  - ・ 墨田区災害復興支援組織の活動として、墨田区防災フェア、墨田区防災フェスタへの参加や防災関係施設視察（本年度は東京ガス袖ヶ浦工場）を企画・参加した。
- ③ 防災支援活動会員の育成
  - ・ 第21回全国防災連絡会議およびCPD企画としてBCPを年4回開催し、防災とリスクに関するCPD機会を提供した。
  - ・ 第30回震災対策技術展（パシフコ横浜 2/5～6）に出展するとともに、セミナーを開催した。
  - ・ 第51回技術士全国大会（熊本）で「第2回防災支援対外活動ワークショップ」を開催した。
- ④ 大規模自然災害発生後の活動
  - ・ 本会が構成団体となっている土業連携団体「災害復興まちづくり支援機構」の活動として、能登半島被災者相談会に技術士を2回、4名派遣した。

## 6) 科学技術振興支援委員会

2つの小委員会で活動している。Aチームは会員が行う「理科教室」の支援審査及び「理科実験事例発表大会」の開催について、Bチームは「サイエンスアゴラ」への参加企画立案及び実行、2025年度から初めて参加する「こども霞が関見学デー」への参加企画立案及び実行を主な目的としている。

① A チーム

- ・ 会員が行う理科教室の支援審査

理科支援活動への申請要領や実施状況をホームページに公開している。2025 年度の支援件数は 55 件で、実施された理科教室には小中学校の児童・生徒の合計で約 2,500 名が参加した。また、会員の理科教室実施を後方支援できるよう、誰もが実施できる「理科大好きクイズ」(WEB 上で公開)の問題数を充実させた。

- ・ 理科実験事例発表大会の開催

「理科教室」活動等を行っている会員から、模範となる理科実験事例の発表が行われた。今回も会場と WEB 配信併用での開催とした。10 回目となる今回は、8 組の発表、デモンストレーションがあり、技術士として必要な知識・技術・プレゼンテーション能力を習得し、理科教室への活用を図っていくという目的につながった。また、本委員会からは、活動事例の報告(こども霞が関見学デー、サイエンスアゴラ)を行った。今後も継続して事例発表大会を行っていく。

② B チーム

- ・ こども霞が関見学デーへの参加企画立案及び実行

新規事業であり、情報収集から始め、具体的な検討を行い、参加した。参加に当たっては、DEI 委員会と連携して実行した。

- ・ サイエンスアゴラへの参加企画立案及び実行

科学技術振興機構(JST)が主催するサイエンスアゴラ 2025 へは、実験にて参加し、サイエンスアゴラ推進委員会から注目プログラムに選ばれた。参加に当たっては、埼玉県支部科学技術振興委員会と協働して実行した。今後も継続して参加していく方針である。

7) 日韓技術士交流委員会

韓国技術士会との新協定(Agreement for Activities Exchange and Cooperation between The Institution of Professional Engineers, Japan and The Korean Professional Engineers Association)に基づき、第 54 回日韓技術士国際会議(新潟)の企画および新協定履行推進の検討を中心に活動を行った。

主なものは以下の内容である。

- ① 9/15(月)に第 54 回日韓技術士国際会議を新潟市で開催した。日本から 136 名の参加、韓国からは 80 名の参加を得た。本会議において、日韓協定書履行推進 WG での両国の協議内容を踏まえた「協定書履行計画推進の方向性、国際協力強化案」の発表および質疑がなされた。
- ② 第 54 回会議のプレイベントとして 9/13(土)に両国の会長・委員長懇談会、日韓女性技術士交流会および日韓親善サッカー大会が開催された。また、9/14(日)に研修視察(佐渡島、新発田、大河津・弥彦)を実施した。
- ③ 2027 年に高松市で第 56 回日韓技術士国際会議を開催するため、四国本部とともに基本計画の検討を開始した。

韓国技術士会との新協定(Agreement for Activities Exchange and Cooperation between The Institution of Professional Engineers, Japan and The Korean Professional Engineers Association)に基づき、第 54 回日韓技術士国際会議(新潟)の企画および新協定履行推進の検討を中心に活動を行った。

主なものは以下の内容である。

- ④ 9/15(月)に第 54 回日韓技術士国際会議を新潟市で開催した。日本から 136 名の参加、韓国からは 80 名の参加を得た。本会議において、日韓協定書履行推進 WG での両国の協議内容を踏まえた「協定書履行計画推進の方向性、国際協力強化案」の発表および

質疑がなされた。

- ⑤ 第 54 回会議のプレイベントとして 9/13 (土) に両国の会長・委員長懇談会、日韓女性技術士交流会および日韓親善サッカー大会が開催された。また、9/14 (日) に研修視察 (佐渡島、新発田、大河津・弥彦) を実施した。
- ⑥ 2027 年に高松市で第 56 回日韓技術士国際会議を開催するため、四国本部とともに基本計画の検討を開始した。

#### 8) 海外活動支援委員会

海外活動を志す技術士への最新の情報提供と継続研鑽に資する様々な講演会・CPD 研修会を企画・開催した。更に国内外での安全な技術士活動をサポートするため、安全保障貿易管理に対するリテラシーを高めて頂くための事例研修会を開催した。

以下に委員会を構成する 5 つの小委員会(何れも小委員長 2 名体制)の活動概況を記す。

- ① CPD研修小委員会：小委員会名にCPDを冠して技術士の継続研鑽を念頭に置いた研修を企画・実施。とくに安全保障貿易管理を常設の研修テーマとして実施。  
5件のCPD研修を実施 (2025年度事業年度附属明細書を参照方)
- ② PDB・HP小委員会：今期から小委員会名にホームページ(HP)を冠してタイムリーな情報発信を推進。小委員会活動内容の迅速な情報発信に加えて海外活動支援委員会としてPDBの有効な運用について議論を開始。
- ③ 国別活動小委員会(ASEAN)  
今期からASEAN諸国をグルーピングした小委員会として活動。2年間の活動計画を策定して、2025年度はベトナムを対象とした実務研修会と第23回フォードの会を開催。  
2026年度はマレーシア、タイ、ベトナムの実務研修会と第24回フォードンの会を計画。
- ④ 国別活動小委員会(韓国・台湾)  
今期から台湾と韓国をグルーピングした小委員会として活動。本年度は6/11に韓国に関する実務研修会を開催し、次年度の台湾研修会開催に向けて日台交流協会及び台北駐日経済文化代表處とのコンタクトを継続。
- ⑤ 内外連携小委員会：JICAと連携したCPD研修を企画・開催すると共に、経産省のアウトリーチ事業を援用した安全保障貿易管理に関する実務研修会の企画・開催。

#### (c) 個別規程による委員会

##### 1) DEI 委員会

日本技術士会 DEI 推進宣言が 2025 年 4 月に公表されたことを受け、7 期目を迎える 2025 年 7 月より委員会名を男女共同参画推進委員会から DEI 委員会へと改称した。また、DEI 実践に向けた日本技術士会のプラン作成に向け、委員会内に DEI アクションプラン検討プロジェクトチームを設置し各種調査を行った。このほか、女性技術者の増加やキャリアパスの構築に向けた支援等を行った。主な活動を以下に示す。

- ① 日本技術士会 DEI 推進宣言の周知啓発 (専門家と会長の鼎談開催及び記事発行等)
- ② DEI 実践に向けた現状把握のため、組織の幹部や会員の多様性、組織の取組状況、DEI に関する会員の意識・実践等を把握するための各種調査を開始
- ③ 専門家を講師とする DEI フォーラム及び委員会内の DEI 学習会をオンラインで開催
- ④ 月刊『技術士』に連載する「DEI シリーズ (その 1)」の「日本技術士会での DEI 活動 (全 10 回)」のうち、2025 年度は 4 回掲載
- ⑤ 技術者・技術士を目指す女性向けに「技術サロン」を 4 回開催。参加者からのよくある質問に答える Q&A 集の第 3 版を発行 (2026 年 3 月)

- ⑥ 多様なキャリアモデル紹介のため、委員会 HP への掲載を追加。また、「技術士キャリアモデル集 Vol.2」を発行（2025 年 7 月）
- ⑦ NPO 法人女子中高理工系キャリアパスプロジェクト主催「女子中高生夏の学校」でポスター展示やキャリア相談を実施
- ⑧ こども霞が関見学デーで親子向けに科学技術への関心を高めるようなプログラム実施
- ⑨ 男女共同参画学協会連絡会の会員として運営会議やシンポジウムに参加し、組織間のネットワークを強化

## 2) 技術士制度検討委員会

文科省 IPD 懇談会において、「技術士を目指す技術者」をターゲットとし本会が主体的な役割を果たしつつ、令和 7 年度から IPD システムをスモールスタートさせる方向が示されたことを踏まえ、研修委員会との連携のもと、本年度中に修習技術者 IPD 事業を開始させるために必要なシステム検討への参画、ガイドライン等の検討・作成を行った。

また、2021 年 9 月に開始した「技術士 CPD 活動実績の管理及び活用制度」については、5 年目を迎え 2026 年度から技術士（CPD 認定）の更新登録が開始されることを踏まえ、そのための準備を進めた。記載申請者の拡大については、引き続き、諸会議を通じてその取組促進を図ったが、結果は十分と言えないものであった。

今年度の主要検討課題と、本委員会が主体となって進めた活動を以下に示す。

- ・ 修習技術者 IPD システム検討への参画、事業に必要なガイドライン等の作成  
（修習技術者 IPD ガイドライン、マニュアル、Q&A、早わかりの作成）
- ・ 修習技術者 IPD 事業スタートに向けた関係機関等への説明・周知  
（文科省技術士分科会及び関係省庁への説明等）
- ・ 「技術士 CPD 活動実績の管理及び活用制度」の普及等のための対応  
（技術士（CPD 認定）更新登録に向けた準備、記載申請取組促進活動）
- ・ 総合技術監理資格の活用状況調査の実施

## 3) 技術士資格活用委員会

### ① 独立行政法人 国立高等専門学校機構との連携

- ・ 高等専門学校における支援希望者を明確化するため、技術士パーソナルデータベースに「高専」タブを新たに構築した。
- ・ 群馬工業高等専門学校において、技術士による講義を実施した。実データや実務事例、演習を交えた講義により、学生の理解と関心の向上が確認され、外部講師による講義は技術の理解に加え、将来像やキャリア形成の面でも有効であることが評価された。今後、他校への水平展開や他学科への鉛直展開を視野に、有効性の検証と標準化を進め、国立高等専門学校機構への提案を取りまとめる予定。

### ② INPIT 知財総合支援への参画

- ・ INPIT 知財総合支援への参画希望者を明確化するため、技術士パーソナルデータベースに「INPIT」タブを新たに構築した。
- ・ 本委員会を窓口とする試行運用を開始し、技術士パーソナルデータベースの「INPIT」タブへの登録内容に基づき、随時寄せられるニーズに対応を行った。

### ③ 地方整備局 技術評価支援

- ・ 地方整備局における新技術活用評価会議への参画については、引き続き、関東・近畿・中国・九州の各地方整備局に対する支援を継続することとし、支援体制を確認した。
- ・ 地方整備局技術評価支援組織（4 地域）において連絡会議を開催し、各地域における

課題及び今後の対応等について情報共有を行った。

- ④ 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との連携
  - ・NEDO から外部有識者の推薦依頼を受け、候補者の推薦を行った。当面は本委員会が対応を担う方針。
  - ・NEDO スタートアップ支援事業等におけるピアレビュー候補の推薦について協議を行った。今後、不足する専門分野を特定したうえで、必要に応じて推薦依頼を受ける予定。
- ⑤ 弁護士会、消費者庁等との連携
  - ・日本組織内弁護士協会会員向け研修会において、技術士による弁護士支援事例及び本会の司法支援の取組について講演を実施した。本講演をきっかけの一つとして、消費者庁から事故調査にかかる専門家推薦依頼があり、対応を行った。今後も消費者庁との連携を継続する予定。
  - ・大阪弁護士会との連携については、地域本部の協力のもと、具体的連携に向けた協議を予定。

#### 4) コンプライアンス委員会

2025年10月6日、2026年3月4日開催。コンプライアンス関連規則の改定と、役職員に対するコンプライアンス教育を実施した。

- ① 役職員倫理規則（コンプライアンス規則）の改定  
反社会的勢力との関係について、より厳しい制約を付け加えた。
- ② コンプライアンス教育 e ラーニングの実施  
統括本部役職員 30 人が先行して 8.5 週間の学習期間で受講、結果検証後に、地域まで拡大して適用することを検討した。
- ③ 情報セキュリティ基本方針（規則）の検討  
情報資産を再定義し情報管理責任者、教育研修責任者の位置付けについて再度検討を重ねた。
- ④ 実績報告と推進計画案の検討  
2025 年度のインシデント対応・規則改定等・コンプライアンス教育結果の報告を行い、2026 年度における施策の継続、コンプライアンス意識向上のための取り組み素案を提示した。

#### (d) 役員候補者選出選挙管理委員会

本委員会は役員候補者選出選挙及び地域組織における幹事選出選挙を所掌し、その事務を管理する。また、本委員会は委員長、副委員長、幹事で構成する幹事会を設け、緊急性のある課題に対処することとしている。

## II 13 組織別の活動状況

### (3) 部会の活動

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、部会相互の連絡協調及び部会活動の活性化に資するため、部会長会議を4回開催した。部会長会議の開催状況及び審議事項等、また、各部会の開催回数、部会における講演会及び見学会は付属明細書を参照。

#### 1) 機械部会

毎月第二金曜日午後の定例幹事会・講演会を活動の中心として実施している。会場とWebを併用したハイブリッド形式を基本とし、CPD 行事への参加に伴う時間的な負担を軽減してきた。全国大会併設機械部会や機械学会との共催行事では学生の参加も得られ、技術士会活動を知ってもらう機会となるとともに、先輩技術士との交流の場としても有意義であった。また、会員にとっても新たな気づきを得る場となった。

##### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会（全体会合）は開催せず、幹事会において会計報告、企画 G からの講演会予定の確認、常設委員会・実行委員会・地域本部からの情報共有を行い、部会運営を円滑に進めた。

##### ② 講演会

毎月の講演会は、4 地域本部への会場配信を含むハイブリッド形式で実施した。10 月の全国大会併設機械部会では見学会のオンライン配信に取り組み、講演会には熊本の学生も多数参加し、活発な議論が行われた。

##### ③ 土曜例会

第二金曜日の定例講演会とは別に、合格者歓迎会を含む土曜例会を2回開催した。土曜例会ではセミナー形式とワークショップ形式を併用し、参加者が主体的に討議できる場を設けた。

##### ④ 見学会

熊本大学施設の見学に加え、板金加工会社である株式会社マキノの見学会を開催した。最新鋭設備の見学とともに、人材育成に関する意見交換を行うことができた。

##### ⑤ その他

部会長交代後の引継ぎは概ねスムーズに行われた。今後は、意思決定に時間を要しないよう、より円滑な運営体制の構築を図りたい。

#### 2) 船舶・海洋／航空・宇宙部会

本部会は、日本技術士会で唯一複数の部門で構成されている合同部会である。主な活動として、奇数月に東京地区において定例部会を開催している。定例部会は、会場とオンライン（Teams）によるハイブリッド開催としており、60名ほどが参加している。他部会からの参加者が多いことが特徴である。

##### ⑥ 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会・委員会は開催せず、計6回の定例部会（5, 7, 9, 11, 1, 3月に開催）にて連絡会を開いて情報共有を実施した。幹事会はメール会議を必要に応じて開催している。

##### ⑦ 講演会

講演会は定例部会に併せて開催し、6回の講演会を開催した。併せて、30から60分の話題提供（技術講演）の場も設けている。なお、すべての講演は会員へのオンライン配信を有料で実施している。加えて部会連携として、講演題材に関連する部会に声掛けし、参加者が増加している。

##### ⑧ 見学会

2025年度は、茨城県支部と合同で、防災をテーマにしたつくば見学会・講演会を実施した。

⑨ その他

3月の定例会で第一次試験/二次試験合格者歓迎会を併せて実施した。

3) 電気電子部会

原則1月、8月を除く毎月の活動として、技術士の資質向上のため講演会・見学会を開催し、CPD取得の場を提供している。

講演会では、対面とWEB配信のハイブリッド形式、地域本部へのWEB配信を行っている。また、CPD実施の相互連携を行っている電気学会のCPD活動を有効活用していただけるように開催情報を提供している。

技術士全国大会では、地域本部との連携を図るため合同で見学会を開催している。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会報告会上期（7月）と下期（12月）は会場のみで開催とし、部会報告会資料をHPに掲載した。

部会幹事会を3回（幹事会2回、拡大幹事会1回）、ハイブリッド形式で実施した。

部会運営会議を原則月1回実施した。

部会長、部会幹事、統括本部の常設委員会、実行委員会委員の変更を行った。

② 講演会

年5回の講演会を開催し、動画収録を行い「Pe-CPDシステム」で公開した。

9月の講演会は、情報工学部会と合同開催として実施した。

③ 見学会

年5回の見学会を開催した。

10月の見学会は第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）部会関連行事として、九州本部と合同で実施した。

④ その他

4月に令和6年度技術士第一次試験・第二次試験合格者合同歓迎会を実施した。

電気学会と隔月で意見交換会を対面/オンラインで開催した。相互連携の一環として、CPD行事を同報メールで案内し、会員相互のCPD機会の提供を図った。

12月に第八回全国電気電子部会長及び部門代表者会議をハイブリッド形式で開催し、8地域本部及び6関東甲信県支部より出席があり意見交換を実施した。

4) 化学部会

約45名で構成される幹事の皆様にて幹事会を開催して部会の運営を行なっている。具体的には、月に1回の幹事会（午前中に開催する）にて部会の運営等について相談と決定を行なっている。幹事会開催日の午後に講演会を開催して、資質向上支援を行っている。また、幹事会開催に合わせて部会長および副部会長による会議を開催して基本的な認識のすり合わせを実施している。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

月例にて午前中に幹事会を開催し、午後に講演会を開催している。講演会のうち2回を見学会として割り振り、1回について新規合格者歓迎会としている。幹事会では理事会の報告、部会長会の報告および各委員会の報告等を行う。技術士会の各委員会の議論等をフォローし、幹事の皆様にて議論等を進め、理解を深めている。また、講演会や見学会などの準備・運営について相談と進展状況の把握と周知を行なっている。

各常設委員会および実行委員会等について、概ね全ての委員会に対して委員を選定して委員会活動を行なっている。今後、幹事の皆様に最適配置を進めたい。

本年は、WEBによる開催を基本とし、機械振興会館にて開催する機会を増やすように計画した。その結果、2回についてリアル開催とした。

## ② 講演会

午前中に幹事会を開催した日の午後に、定例の講演会を行っている。本年度は化学・金属・繊維・資源工学の4部会で合同にて開催した講演会を日曜日（8月）に開催した以外は、全て土曜日開催とした。幹事会で討論し、基本としてWEBによる開催とし、機械振興会館にてリアル開催を増やす方針に合意した。WEB開催では、遠方の講師の講演を聞くことが可能となったこと、および聴講者の講演会参加負担が低減できることがメリットである。この結果、参加者が増加したと判断している。

講演会は各月、技術士会外の講師による講演をいただくこと、技術士（主に化学部門）のそれぞれ1名ずつにお願いしている。外部専門家からは幅広い領域の講演を頂き、技術士には自身の業績廻りの話題を講演してもらっている。今後、幹事の紹介を進めて相互の認識を深めたい。

また人脈と視野の拡大を目的に、他部会との交流を推進している。本年度は金属部会、繊維部会、および資源工学部会と合同で講演会を開催し、また全国大会で合同見学会を開催した。

## ③ 見学会

例年では3月と9月に2回見学会を開催している。近年のコロナ感染拡大防止対応のため、状況により講演会とする、もしくは中止とする対応を行なった。本年度は10月度および3月度に見学会を開催した。

## ④ その他

- ・ 化学物質管理研究会：「化学物質管理」に特化した専門知識を習得するため、偶数月に勉強会、事例研究会、セミナーを近畿支部、中部支部との間でWEB中継して開催し、その講演会の前に同じくWEB中継して幹事会を開催し入会承認、行事、講演企画等を検討している。本会を母体として立ち上げた（一社）化学物質管理士協会（PromoCS）が令和元年度から実施している「化学物質管理試験」の受験（民間）資格を得るため、および専門知識を深めることを目的としている。
- ・ 日本化学会展示：化学部会の活動の紹介、技術士の認知度向上を目的に、日本化学会春季年会において展示ブース出展を行っている。昨年度にて日本化学会第105回春季年会（関西大学、千里山キャンパス（3/26-28））にブース展示を行った。引き続き、日本化学会106回春季年会（日本大学理工学部（3/17-20））に出展した。「技術士会紹介ビデオ」を活用して、技術士と技術士制度の紹介を行なった。
- ・ 次代の化学部会を担う現役世代（「若手の会」）の技術士による社会貢献活動の一環として、夏休み理科教室を開催した。また、11月には科学技術振興機構が主催するサイエンスアゴラ2025にも出展した。
- ・ 若手の会が主催する新規合格者歓迎会（一次試験合格者、二次試験合格者）を開催して若手会員の相互連携の場を提供した。

## 5) 繊維部会

本年度は、密かに残る新型コロナウイルス等による感染症を警戒しつつ、対面交流が積極的に行えるような活動に力を入れ、部会内の幅広い交流に務めた。

オンライン及び、対面・オンラインの併用によって、全国、地域本部在籍会員の参加も

得られ、多くの人に参加いただけた。

なお、若手技術士交流会は、専任の幹事を任命し、新合格者歓迎会などに工夫を凝らし、新規入会者の勧誘に努めるとともに、若手技術士の活躍の場を広げるとともに、次世代の育成に努めた。

これらの活動を通じて、昨年度より5名の部会員の増加があり、2026年2月末では108名の構成となった。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

全国の繊維部会会員を対象に、オンラインと会場（技術士会 211 会議室）のハイブリット方式で、4回開催し、理事会および部会長会議、技術士会全国大会の報告を行うとともに、各地域本部での活動報告、繊維部会の体制の協議や、会員間の情報・意見交換を行った。

会員から出された意見や要望は、日本技術士会部会長会議で紹介した。

幹事会は、必要検討事項の討議を行なうとともに、CPD 講演会の企画、準備、新合格者歓迎会 などの検討を含め、計7回実施した。

委員会活動には、積極的に部員を派遣、全常設委員会7委員会に8名、実行委員会8委員会に4名の委員を派遣し、適宜、技術士会活動に、積極的に参画している。

また、このうち委員会委員長に2名の選ばれた。

② 講演会・見学会

繊維部会主催で5回の CPD 講演会をオンラインで行い、経済産業省、業界の有識者のご協力も得て、繊維関係の政策や技術、及び技術者倫理の講演を戴き、他部会からの参加者も含め、延べ176名が受講した。

なお、講演は動画録画して、Pe-CPD として会員が視聴できるようにしている。

また、化学・繊維・金属・資源工学の4部会合同にて、8月に4部会合同講演会を開催し、「技術士が語る、素材の過去・現在・未来」をテーマに、繊維部会より前坂講師が講演者として参加、合計117名が受講（繊維部会からは21名）した。

③ 技術士試験1次及び2次新合格者歓迎会

新規合格者の技術士会への入会促進を図るため、技術士第一次および第二次試験合格者歓迎会を4月12日（土）に、機械振興会館日本技術士会 211 号会議室にて、対面・オンライン併用方式で開催し、技術士会への勧誘に務めた。

④ 技術士試験1次及び2次新合格者歓迎会

新規合格者の技術士会への入会促進を図るため、技術士第一次および第二次試験合格者歓迎会を4月12日（土）に、機械振興会館日本技術士会 211 号会議室にて、対面・オンライン併用方式で開催する予定である。

⑤ その他

（1）DEI 委員会 DEI 組織ディスカッションへの参加（2名）

（2）一般社団法人 日本繊維技術士センター（JTCC）主催講演会の支援

JTCC が主催する「繊維寺子屋“観て・触って・考える”体験塾」、及び「先端繊維技術セミナー」を後援の形で支援を行い、繊維業界の技術者育成の支援に務めた。

・「繊維寺子屋・・・は」体験的講義形式により、複雑な繊維技術の相互関係を理解し、SDGS を学び、将来の繊維技術者を育てる。

・「先端繊維技術セミナー」最先端の繊維技術を学び、学習する講座

講義を通じて、講師を勤める技術士自身の研鑽にも繋がり、非常に有意義であった。

次年度以降も、後援による JTCC 講座への支援を継続して行く。

## 6) 金属部会

### ① CPD 技術講演の開催

- ・毎月の定例部会で年 12 回開催。12 人の講師は、部会員および招待講演者。
- ・CPD 技術セミナーを 6 回開催。17 人の講師は、部会員及び招待講演者。
- ・延べ参加者数は前年と同じく、1,702 名。

### ② 見学会の実施

- ・5 月：中国地方で「たたら見学バスツアー」を企画。28 名の参加者があった。

### ③ 四部会合同講演会

- ・8 月に「繊維・化学・金属・資源」の四部会合同で講演会を開催。

### ④ YES-Metals!

- ・2009 年の発足以来毎月開催。本年は 159～170 回（2025 年 3 月時点）開催。毎回 20～30 名が参加し、継続的な交流と学びの場となっている。

### ⑤ 年報『テクノメタリカ 2025』の発行

- ・金属部会の活動年報として本年も編集・発行。1 月の第 5 回吉武記念講演会で公開した。

### ⑥ 名誉会員制度の運用

- ・金属部会顧問を名誉会員として委嘱。春と秋に顧問会をリアル開催し、活動の方向性について意見交換を行っている。

### ⑦ 一次試験受験者数 3 倍増キャンペーンの実施

- ・技術士の仲間を増やし認知度を上げるために、一次試験受験者を増加させる試みを 2024 年末から行なっている。
- ・2025 年 9 月以降、金属部会公式 X で毎日情報発信をし、一次受験生の増加を図っている。
- ・2026 年 2 月一次試験受験生を対象に受験説明会を開催した。

### ⑧ 地域本部との交流会

- ・全国大会を含め、中国、近畿、中部で交流会を実施した。

### ⑨ 日本金属学会との連携強化

- ・学会誌「まてりあ」にて、2024 年 2 月から「技術士紹介記事」を隔月で連載中（3 月現在で 13 報掲載済み）。
- ・3 月の春季講演大会では、昨年に続き金属部会主催のシンポジウム「What's 技術士？PART2」を開催。28 名の参加者があった。
- ・金属部会は金属学会の賛助会員となり、関係強化を図っている。

## 7) 資源工学部会

2025 年度の部会活動重点方針として下記 5 項目を掲げて部会活動を行った。

- \* 技術士試験受験者増加
- \* 資源工学技術士の入会促進
- \* 会員の継続研鑽への貢献
- \* 地域本部との連携強化
- \* 技術士資格の活用拡大

### ① 技術士試験受験者増加

石灰石鉱業協会誌、骨材資源工学会誌、資源・素材学会誌、天然ガス鉱業協会誌に技術士試験紹介記事を投稿し掲載された。

### ② 入会促進

合格者歓迎会、CPD 講演会を通じて新規部会員の入会促進を図った。新規合格者に対して講演会参加費を 1 年間無料とする優遇策を導入した。2024 年度資源工学部門二次試験合格者 3 名全員が技術士会に入会した。

### ③ 継続研鑽への貢献 1（講演会）

2024年度中に計7回の講演会を開催し、延べ441名の参加があった。この内8月は金属部会、繊維部会、化学部会との4部会合同講演会であり、12月は応用理学部会と共同開催として実施した。講演内容は、会員または有識者の講師による講演であった。講演会は機械振興会館での会場開催に加えてWeb配信を併用したハイブリッド方式で開催した。演題は資源・エネルギー、サーキュラーエコノミー、カーボンニュートラルに関するものが中心であった。

④ 継続研鑽への貢献 2（見学会）

2025年6月16日、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 神栖国家石油ガス備蓄基地 鹿島石油株式会社を見学し、19名の参加があった。

⑤ 地域本部との連携強化

近畿本部幹事に統括本部からもWeb参加している。2025年9月24日、近畿本部資源工学部会主催の講演会を開催した。2026年2月18日近畿本部と統括本部の資源工学部会で合同講演会を開催した。

⑥ 技術士資格の活用拡大

2025年5月19日、技術士資格活用委員会の河野委員長に同行してJOGMRCを訪問し技術士資格活用に関する打ち合わせを行った。

⑦ 幹事会、合格者歓迎会

2025年度中に4回の幹事会を開催した。幹事会の内容は理事会報告、常設委員会委員からの報告等による情報交換、部会内必要案件の討議であった。5月15日に合格者歓迎会を開催し2名の新規合格者の参加があった。

8) 建設部会

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

毎月1回の割合でWeb会議併用の幹事会を開催し、理事会報告や懸案事項の協議を通じた意見交換を行い、部会の意見を理事会等へ反映した。

幹事の数名は常設委員会や特別委員会、実行委員会の委員として、また、個別規定による委員会の委員として参画し、各委員会と部会との意思の疎通を図っている。

部会には企画委員会、研修委員会、広報委員会を設け、部会への意見照会等の審議、CPD行事の企画運営、広報活動を行った。

② 講演会

講演会の企画運営は部会研修委員会が行い、講演テーマおよび講師の選定、講師との折衝、当日の司会等について、担当者を決め実施した。

技術者倫理、防災、気候変動、カーボンニュートラル、DX/GXなど多岐に亘る分野の講演会を計11回開催し、Web参加を含め総勢1,700名程度が参加した。このうち8月は栃木県支部、9月には東北地域本部との合同企画を実施した。12月は定例化している講師を土木学会から迎え講演会を開催した。今年度もWeb方式併用の講演会を開催し、今後も同様の開催方法で講演会を充実していく方針である。

③ その他

今年度も建設部会主催の技術士二次試験合格者祝賀会を6月21日に開催し16名の合格者が参加した。

関東甲信地域県支部代表者との意見交換会を10月3日に開催し、継続的な意見交換およびCPD活動の連携について確認した。神奈川県支部開催の建設部門関連CPD行事について、建設部会同報メールを活用し、広報の浸透を図ってきており、

他の県支部への展開を協議している。

技術士全国大会（熊本）において、10月25日に地域本部建設部会との意見交換会を開催した。各地域本部の活動状況に加え、建設部会の運営方針、活動状況、技術士制度検討・資格活用委員会での検討状況を報告し、情報共有した。また建設部会と地域本部との連携について意見交換を実施した。

#### 9) 上下水道部会

資質向上のためCPD（継続研鑽）の場（講演会・見学会）の提供を中心に活動した。講演会や幹事会はハイブリット方式により開催した。

##### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

全国大会に併せて衛生工学部会との共催により熊本市上下水道局職員2名の方による講演会を開催した。その際、各地域本部での両部門の活動状況の紹介を行った。統括本部の各委員会には部会幹事が委員として参加している。

隔月開催している幹事会では、講演会、見学会等の企画や結果分析、理事会、部会長会議、各委員会の報告を行い、情報共有と意見交換を行った。

幹事会の開催は、同報メール及びCPD行事案内で行っており、毎回、幹事以外の複数の参加者があった。なお、地域本部所属2名が幹事として活動している。

##### ② 講演会・勉強会

講演会のテーマは、住民合意形成手法、(水道)水質基準の改正、強靱化などに関する話題を取り上げ、計6回開催（中国本部からのWEB中継1回を含む）した。若手技術者の参加を増やすため平日の夜間だけではなく、土曜日の午後にも4回開催した。オンラインでの参加が多く、全国各地から参加があった。

初めての試みとして、グループ討議を中心とした「勉強会」（テーマ：八潮市の道路陥没事故を踏まえて～技術士にできることは～）を開催した。

会員増強を目的として、5月に第一次・第二次技術士試験合格者歓迎会を実施するとともに新規合格者については、講演会の参加費を合格後一年間は無料とした。

##### ③ 見学会

埼玉県大久保浄水場（130万立法メートル／日、急速ろ過法）の見学会を開催した。

#### 10) 衛生工学部会

2025年度の部会活動は、CPD行事を中心に部会員の継続研鑽を支援するとともに、地域本部との連携をはかりながら活動内容の充実・発展を推進することに努めた。

##### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会における全体会合については、「定例部会」と「意見交換会」を開催して理事会・部会長会議・委員会等の実施報告と部会活動に対する意見を交わして、部会運営に反映させている。また、全国大会には「講演会」「見学会」を実施して対面による地域本部と統括本部の部会員交流を図った。

幹事会においては、部会行事の方針・具体計画・地域連携等を協議しながら、部会員への具体的支援策を検討し実践している。また、地域本部の幹事にも定時幹事会にリアル出席を求めており、地域本部の部会課題についても協議しながら部会員の支援となる部会運営を進めている。

##### ② 講演会

講演会については、5回開催（7講演）を実施した。「技術者倫理」に関する講演を2回、「再エネ政策とビジネスモデル」を絡めた講演、上下水道部会と協賛で「下

水道資源の活用」と「地下水活用の水道事業」の講演、また、違った視点では「歴史的建造物の解説」「最新ドライバー開発にみる設計進化と製造技術」等を勉強することができた。

③ 見学会

見学会については、4回開催を実施した。見学先については、研究施設として官では「産総研の臨海副都心センター」「都立産業技術研究所」を見学し、民では「東洋熱工業の技術研究開発センター」「戸田建設の筑波技術研究所」を見学することができた。また、全国大会では、「サクラマチクマモトの地下水熱利用システム」「PS オランジュリ」を見学することができ、4地域本部の部会員と共に対面行事として部会に対する意見交換を含めて有意義な時間を過ごすことができた。

11) 農業部会

① 部会における幹事・例会の活動

部会員の幹事登用を進め（2025年度末56名）、中国本部・九州本部からも幹事に就任し、地域本部への講演会配信等に努めている。5回の例会（ハイブリッド）を開催し、部会や委員会活動等の状況について情報交換した。

② 技術士（農業部門－植物保護）の資格活用

農林水産省「総合防除実践ガイドライン」（2025年9月10日）において、「防除指導者及び地域リーダーの育成・伴走の支援体制の整備」において、「技術士（農業部門・植物保護）の活用」が明記され、日本技術士会会長あての通知が発出された。農業部会では関係者への周知を行うとともに、2026年2月7日に農林水産省担当官による講演会を開催した。

③ 講演会

農業部会主催で5回の講演会を開催し、主催会場（機械振興会館）から遠隔会場の地域本部（中国本部・九州本部・東北本部）、県支部（広島、岡山、鳥取、山口、鳥取）への配信、個人配信を行い、毎回約70名が参加している。講演会は専門分野のバランス、多様な属性の講師となるように配慮している（女性講師は2名）。録画によるCPDへの活用のほか、CPDweb登録会員向けの配信対応も進めている。12月には生物工学会と合同講演会（7年目）を開催し、活発な質問・意見交換が行われた。

④ 見学会（神奈川県下）

10月2日に30名（関東地域のほか、山梨県、大阪府も含む）が参加し、神奈川県立かながわ農業アカデミー、農林水産省横浜植物防疫所、横浜市みどり環境局北部農政事務所を訪問した。次世代育成状況の聴取、実習ほ場等の見学、植物防疫業務（輸出検疫、輸入検疫、国内検疫）の聴取、横浜市都筑区のJA直売所周辺のほ場やかんがい施設の見学等を行った。

⑤ 地域本部・森林部会・水産部会との連携

10月全国大会（九州・沖縄）では、農業部会、森林部会、水産部会で合同意見交換会を開催した。進藤金日子・与党技術士議員連盟副幹事長を始め全国から35名が参加し、九州本部みどり部会、中国本部農業/森林/水産部会や各部会からの活動報告と特徴的な取り組み、今後の連携活動等について意見交換した部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

12) 森林部会

部会活動は、CPD講演会を中心にWebシステムを活用し、森林部門技術士会との覚書に基

づき、交互開催を原則として実施した。また、毎年4月に実施している特別講演会後の懇親会の場を活用して、技術士試験森林部門の第一次試験合格者及び第二次試験合格者の歓迎会を実施するとともに、技術士会統括本部が開催する合格者ガイダンスに積極的に参加した。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会（部会総会）は、4月15日にWeb参加者を含め、部会幹事の出席の下に開催した。2025年度の部会幹事会は年5回実施し、部会幹事が委員として、参加している常設委員会及び実行委員会の報告を含め「日本技術士会（統括本部）の動向」や「森林部門技術士の活用促進」等について報告し、必要な協議を行った。

② 講演会

講演会は林業・林産、森林土木、森林環境の各専門分野における外部講師等を依頼し、年7回実施し、総勢974名が参加した。このうち、2回は応用理学部会と合同で実施し、合わせて279名が参加した。

③ 見学会

8月29日に15名が参加し、十勝岳の火山噴火に伴う泥流対策の取組みについて次の2か所で現地見学を行った。①美瑛川国有林治山施設（現地説明：北海道森林管理局上川中部森林管理署治山グループ）、②富良野川補助砂防事業箇所（現地説明：北海道上川総合振興局旭川建設管理部事業室）。（森林部門技術士会北海道支部に協力）

また、11月14日に、20名が参加し、滋賀県大津市田上山（一丈野（いちじょうや）国有林）において、滋賀森林管理署のご協力を得て、はげ山復興の現場を視察した。

④ その他

10月25日に、熊本市で全国大会の関連行事として「九州本部みどり部会、農業部会、森林部会、水産部会合同意見交換会」を初めて実施し35名が参加した。来賓として進藤金子参議院議員に参加していただき、各部会からの報告と意見交換を実施した。

契約方式の変化（総合評価方式の導入等）に対応した技術士の活用、特に継続研修（CPD）の積極的評価について、11月に発注官庁である林野庁の担当者に要請活動を行った。

会員に対しては、ホームページ及び同報メールにより講演会の案内、森林・林業行政の動向、日本技術士会の動き等に関する情報提供を適時に行い、その内容の拡充を図った。

13) 水産部会

部会活動は、CPDの場を提供する講演会を中心に実施した。部会主催の講演会は、参加しやすいように毎奇数月の第2土曜日に決めて開催し、Web配信の併用により中国本部への中継及び個人配信を実施した。技術士試験水産部門での第一次試験合格者及び第二次試験合格者の歓迎会を実施し、新規会員の参加を促進した。

① 部会における年次総会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会年次総会は5月に開催した。決算報告を中心に活動の総括を行い、次年度の予算・活動計画についても提案・議論を行った。

幹事会は、2ヶ月毎の講演会開催時に併せてWeb併用で行った。理事・部会長・各委員から理事会報告、部会長会議報告、各常設・実行委員会報告を行い、それらに対

応して必要な協議を行った。

② 講演会

例年通り2ヶ月毎に講演会をWeb配信併用により開催した。水産に関する専門家を招き講演を行い、講演後に講演者との質疑応答などの自由討論を行った。さらに、講演を録画しCPD講演内容のHP視聴コーナーにも掲載した。

③ 見学会

2025年8月9日 水産部会と茨城県支部が合同で、水産加工場・陸上養殖場見学会を実施した。見学先は 株式会社紀文食品 東京工場及び株式会社フジキン ライフサイエンス研究所の2か所で19名の参加があった。

④ その他

・第27回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー（東京ビッグサイト）において無料相談ブースを開設し、3日間で延べ20名の技術士が窓口を担当した。相談件数は21件で、養殖時のろ過装置、各種原料のすり身製造、水産食品販売・開発、水産業界への融資、水処理装置、液肥製造時の魚臭対策、など多岐にわたった。相談ブースでは技術士の活動紹介のパネルを掲示するとともに、水産部会照会ビデオ映像を映した。またセミナー会場では2名の部会員が技術発表を行い、20名を超える参加者があった。

・水産部会のアウトリーチ活動の一環として、水産に関わる情報誌「水産界」に技術紹介として部会員がリレー執筆を行った。また、日本水産学会水産教育推進委員会、（国研）水産研究・教育機構、（公財）農学会に委員を派遣するとともに意見交換を実施した。

14) 経営工学部会

2025年度は見学会の実施、地域本部連携で毎年開催を申合せた全国大会併設の経営工学部会合同専門部会も開催でき、これを含めた講演会は参加者の利便性などから全て会場とwebのハイブリッド開催とすることができた。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

例会は7回、幹事会は例会日の前週の平日夜間オンライン、および土曜日午後の例会開催日の午前中に7回開催し、会場とwebのハイブリッド開催を基本として実施した。例会では理事会・部会長会議・委員会の報告を行い情報の共有を図った。事業・収支の報告・計画を議案とした年次総会は5月21日から6月3日のwebでの書面決議参加人数170名（決議権行使65名、決議権委任102名）で議案が成立した。本部委員会活動には、審議委員に1名、常設委員に8名、実行委員他に12名が参加している。

② 講演会

例会、勉強会として計6回、「実務研究」「業績発表」などテーマを設けてハイブリッド開催し、延べ416名の参加を得た。講師の了解を得た講演は収録し、Pe-CPDからのHP視聴に5本（5講演）提供している。5月には令和5年度一次・二次合格者合同歓迎会を兼ねて講演・討論会をハイブリッド開催し、合格者9名を含む40名(会場25名、web15名)の参加を得て交流を図ることができた。

③ 見学会

半日見学会として7月に味の素（7/4 午前、24名参加）、を訪問した。また11月に1日見学会として「工業技術博物館」、トラスコ社「プラネット埼玉」を訪問した(11/6、18名参加)。各々の企業・施設の特色ある取り組み、製造・管理手法などの知見を

得た。

④ その他

日本経営工学会、日本 I E 協会との経営工学三団体連携活動として、2 月例会でのテーマ講演会のほか、「技術士を目指そう説明会」(1/31、34 名参加)を共催した。地域本部との連携活動として部会長間で申合せた毎年開催の全国大会併設経営工学部会合同専門部会をハイブリッド開催した(10/25、37 名参加)。

15) 情報工学部会

情報工学部会の活動の主目的は、部会員の継続研鑽とヒューマン・ネットワーク構築の支援である。部会運営は、原則として月 1 回の月例会(金曜日 18:30~20:00)と月 1 回の幹事会(月曜日 18:30~19:30)を基本とし、イベントとして、年 1 回の総会、情報処理学会と連携した CPD コラボレーション(講義とワークショップ)等を実施している。2025 年度は、計 11 回の部会を開催した。

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

5 月 23 日に総会を開催し、事業報告、会計報告及び講演会を行った幹事会は月 1 回、計 12 回開催した。また委員会活動は、常設委員会に 5 名、実行委員会に 7 名、個別規定委員会(選挙管理委員会を含む)に 4 名、計 16 名(延人数)の部会員が委員として各委員会活動に参画した。

② 講演会

2025 年度は、10 回の講演会を開催した。この内、5 月は総会を兼ねて実施し、11・12・3 月は土曜日の午後を利用し情報処理学会との(覚書に基づく)CPD コラボレーションとして講義とワークショップを実施した。4 月 18 日は、第一次・第二次試験合格者の合同祝賀会を兼ねて実施し、多数の新合格者が参加した。9 月には電気電子部会との合同部会を開催し、部会間の連携・交流を図った。10 月には全国大会(熊本)において特別例会を実施した。

Web 中継は、地域本部からの希望に基づいての実施や個人会員向けに随時実施し、全国の部会員の参加の便宜を図った。(ハイブリッド形式を基本とし、講師の希望により WEB のみの場合もあり)

③ 見学会

1 月に「トラスコ中山(株)プラネット埼玉」を見学した。

④ その他

- ・新合格者・JABEE 修了者に対して 1 年間有効の部会参加費 1,000 円割引を実施し、部会参加の便宜を図った。
- ・情報処理学会と連携し(覚書を締結)、高度 IT 人材育成等について取組みを進めている。2018 年度合意された連携内容(認定情報技術者(CITP: Certified IT Professional)制度における技術士(情報工学)資格の活用等)に基づき、今年度も継続して「技術士(情報工学)を対象とした認定情報技術者(CITP)資格の審査及び申請料の一部免除」が実施された。

16) 応用理学部会

応用理学部会は、基本的には毎月第 3 火曜日に定例会(幹事会及び講演会)を開催し、会員及び一般の専門技術者に継続研鑽の場を提供している。多分野の専門技術者が集合している部会の特徴を活かし、物理及び化学、地球物理及び地球化学、地質等の専門領域のテーマに加えて、幅広く興味深いテーマの専門講師を招いて、講演会を開催してい

る。

① 部会における年度大会・委員会活動・幹事会

5月の年度大会は、ハイブリッド方式で開催し、年間活動計画を決議した。定例活動は、毎月第3火曜日（12月は土曜日午後に変更）とし、3月（年度末）の中止を除き、幹事会、定例会を実施した。幹事会では、講演会企画および運営の他、理事会、部会長会議、および本部各委員会から依頼された討議事項などを話し合った。定例会は講演会を11回開催した。

② 講演会

合計10回の講演会を機械振興会館とWeb併用のハイブリッド方式で開催した。そのうち4月は技術士試験合格者3名の発表講演、9月は森林部会と共催で「大地の5億年-せめぎ合う土と生き物たち-土と生命の46億年史」の講演を行い、10月は全国大会併設「応用理学部会 in 熊本」を九州支部本部と共催して行い、11月は部会技術士（3名）による発表講演会、12月は資源工学部会と共同講演会、をそれぞれ開催した。

③ 見学会

本年度は8月度（8月23日）の日立オリジンパークの見学会を行ない、日立技術士会の先生に講演をお願いした。

④ その他

講演HP視聴登録 10件（大地の5億年-せめぎ合う土と生き物たち-土と生命の46億年史など）。

17) 生物工学部会

本年度も、業務を創出しそれをこなせる人材を育成するという施策のもと、部会発足当初からのスローガンである「いつ来ても楽しい生物工学部会」の実現をモットーに、次の部会活動を進めた。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

幹事会を毎月（合計12回）開催し、講演会、夏季施設見学会、新合格者顔合わせ会の企画など、部会運営に関わる協議をおこなった。

6月の例会を年次大会と位置づけ、本年度はこれまでにない試みとして、部会総会（この1年の日本技術士会と生物工学部会の動きを共有するとともに、来期の活動について議論）ならびにワークショップ（より一層「いつ来ても楽しい」会になるよう、例会のありかた、進め方について話し合う）を開催した。

関連学会開催に合わせた技術士全国交流会を、第77回日本生物工学会大会（広島）に合わせて9月11日に開催した（参加者：6名）。

② 講演会

主催例会・講演会を6回開催した（うち1回は農業部会との共同開催）。例年6月におこなっている業績発表会（第29回）の演題数は、特別講演1、口頭発表12（一般講演6、ショートトーク6）の合計13であった。

③ 夏季施設見学会

2025年度の夏季施設見学会は、兵庫県神戸市ポートアイランドのメディカル・クラスター、バイオ・クラスター並びにシミュレーション・クラスターの3エリアで開催された。参加者は、生物工学部門だけでなく、化学、上下水道、機械及び経営工学部門の方々にもご参加いただき、計38名の参加者であった。河野猛近畿本部生物

工学部会長の開会の挨拶で幕を開け、神戸医療産業都市推進機構ではクラスター推進センター創薬バイオ GL の小池晴彦先生、理化学研究所生命機能科学研究センターではサイエンスコミュニケーター山岸敦先生、理化学研究所計算科学機構「富岳」では高度情報科学技術研究機構 R I S T 須永泰弘先生（当部会員）、そして株式会社 バッカス・バイオイノベーションでは取締役服部亮先生より貴重なご講演、質疑応答及び各施設のご紹介があった。

④ その他

- ・ 第一次試験・第二次試験新合格者合同顔合わせ会を、東京会場（機械振興会館）ならびにオンラインとのハイブリッド形式で、4月19日に開催した。
- ・ 外部への広報活動として、日本生物工学会（2025年9月）ならびに日本農芸化学会（2026年3月）の大会において、日本技術士会ならびに生物工学部会の活動を紹介するフライヤー配布をおこなった。
- ・ 農業部会との連携行事として合同講演会を1回、生物工学部会の主催で12月13日に開催した。
- ・ 製品評価技術基盤機構（NITE）との連携・協力を今年度も継続した。

18) 環境部会

2025年度の環境部会の活動は、毎月第4木曜日に以下の四区分の行事について、会場（機械振興会館）+WEB中継のハイブリッド形式で実施した。なお、運営会議はWEB（Teams）を基本としている。

- ・ 基幹行事：年会、技術交流会、歓迎会等、開催月を決めて実施する年間必須行事
- ・ 定例行事：全国大会への参画のほか、上記以外に幹事の企画提案に基づいて実施する講演会、見学会等の月次定例会
- ・ 共催行事：技術士会の他の部会・地域本部、或は学協会の主催する講演会等を共催
- ・ 運営会議：毎月開催する行事内容の企画を中心とした幹事会

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

- ・ 年会は、議案を部会HPに掲載し、メールでの質問受付、メールでの回答とした。
- ・ 幹事会は、具体的な活動内容を企画、準備のため、毎月第4月曜日18:30~1時間 Teams で実施した。また、常設・実行あわせて13の委員会に幹事が委員として参画し、運営会議において状況報告を行うことで情報を共有した。

② 講演会はすべて会場（機械振興会館）+WEB中継でのハイブリッド形式で実施した。

③ 見学会 12月6日（土）、利根川河口堰（黒部川水門等）、参加者8名）

- ・ 利根川、利根川河口堰等の水門、魚道の状況などの観察を行った。利根川河口堰、黒部川水門の1971年竣工後、2007~2009年にかけての多自然型魚道の整備等により、多くの魚類等が利用していることが調査により報告されている。

④ トピック的な活動

部会員のネットワークづくり、「実践型CPDを通じた部会の活性化」ディスカッション会合を、8月、12月、1月と3回実施した。

- ・ 技術者同士の緩いつながりと、自由な意見交換の場を構築することで、[1]技術士として社会貢献できるフィールドを開拓する。[2]またその活動を通じて技術力を向上させるという目標の元、グループワークによる討議と発表を行っている。

19) 原子力・放射線部会

2025年度の原子力・放射線部会では、予定通り活動を推進することができた。

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

全体会議を6月20日に対面とオンラインのハイブリッドで開催し、2024年度の活動実績を報告するとともに、2025年度の活動方針を説明、意見交換を行った。2025年度は、幹事会をハイブリッドで6回開催し、方針に沿った具体的活動の進め方、企画内容、対応方針等について議論した。

② 講演会等

原子力・放射線部門の技術士として学ぶべき項目として、「粒子線を用いたがん治療」、「六ヶ所再処理工場の竣工への取組」、「福島原子力災害派遣における自衛隊の活動概要」および「大型放射光施設 SPring-8 の Web 見学会」などをテーマに、講演会をハイブリッドで計7回開催した。

③ 見学会

2025年6月6日に国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構（QST）那珂フュージョン科学技術研究所にて見学会（WEB見学会用のVTR撮影を兼ねる）を実施した。一般の見学会コースには含まれない、放射線管理区域内にある核融合実験施設 JT-60SA 本体室も見学・撮影させて頂くことができ、大変有意義なweb見学会となった。放映動画の編集をほぼ完了しており、今後、放映会（技術士の夕べ）の開催を予定している。

④ その他

9月17日に原子力・放射線部会 会報第28号を発刊した。技術士制度の学生への認知度向上と受験奨励のために、原子力・放射線関係の学科、研究機関のある6大学に対して、技術士制度と原子力・放射線部会を紹介する説明会を実施した。また、同様の目的で、10月に北九州市で開催された日本原子力学会秋の年會にブース出展し、160名の訪問者に説明した。また、12月の保健物理学会の第58回研究発表会にも出展した。これらでは多くの来場者を迎え好評であり、多くの学生や若い技術者の受験意欲を確認できた。出展の対応を通じ、部会員同士の交流も図ることができた。原子力や放射線利用分野の技術者、研究者に技術士資格をアピールすることができたことで、今後の受験者数の向上が期待される。

**(4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動**

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、地域本部相互の連絡協調及び地域本部活動の活性化に資するため、地域本部長会議を4回開催した。地域本部長会議の開催状況及び審議事項等、各地域本部等での総会等の会合の回数、地域本部等における主な講演会等及び見学会は附属明細書を参照。

1) 北海道本部

北海道本部は2026年度に創立60周年を迎える。2026年6月12日（金）に記念大会を開催すべく実行委員会を2回開催した。また、第45回地域産学官と技術士との合同セミナーを開催するほか、技術士の知名度向上、会員の継続研鑽支援等の活動を継続して実施している。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・2025年7月15日（火）に第60回年次大会を行った。
- ・本部長を含め30名で構成される役員による本部役員会を4回（いずれもハイブリッド形式）開催した。
- ・地域委員会（技術士試験、総務、事業、広報、社会活動、地方、防災、青年技術士交流、倫理）を計134回開催した。

- ・ 各委員会等において講演会見学会の開催等CPD行事（35回）を中心に活動した。
- ② 行事
- ・ 2025年7月2日(水)に第15回技術者倫理フォーラム（ハイブリッド形式）を開催した。
  - ・ 2025年9月6日(土)に公開講演会『技術士・技術士補による知的書評合戦 ビブリオバトル』を開催した。
  - ・ 2025年10月23日(木)に第36回防災セミナー（3つの地方サテライト会場同時中継）を開催した。
  - ・ 2025年11月25日(火)に令和7年社会交流セミナーを開催した。
  - ・ 2026年2月25日(水)に第45回地域産学官と技術士との合同セミナーを開催した。
- ③ その他
- ・ 技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
  - ・ 技術士の社会認知度向上、理科系教育現場の支援事業として、JABEE認定校4校、認定外大学・高専2校、道立高等学校2校、札幌市立中学校1校、札幌市立小学校2校にて出前授業を行った。
  - ・ 理工学系教育現場における支援事業(学生との協働活動)として、道立工業高等学校を対象に出前授業を10回行った。
  - ・ 理科授業を通じ、自然科学、科学技術の面白さ、奥深さ、大切さをわかりやすく教え、将来技術者となる人材の芽を育てるため、小学生等への授業・実験を13回行った。
  - ・ 北海道本部会報「コンサルタンツ北海道」を3回発行した。

## 2) 東北本部

2025年度は、2021年度から開催している「東日本大震災復興10年事業」の最終年5年目を実施した。

- ① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動
- ・ 7月19日(金)に87名が出席して第53回年次大会をオンライン併用で開催した。
  - ・ 本部長を含め35名で構成される地域本部幹事による役員会を4回オンライン併用で開催した。
  - ・ 政策事業、広報、CPD、防災、青年技術士交流、倫理研究、次世代インフラ研究、男女共同参画推進、8委員会では、それぞれ年1～12回の委員会を開催した。
- ② 行事
- ・ 東北本部をはじめとする6専門部会及び8委員会が、研修会・見学会等のCPD行事を28回開催した。
  - ・ 2025年4月25日(金)令和6年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会をオンライン併用で開催した。
  - ・ 2025年9月25日(木)に東日本大震災復興10年事業(2025事業)をオンライン併用で開催した。
- ③ その他
- ・ 技術士第一次試験及び第二次試験の宮城会場における実施を支援した。
  - ・ 東北本部会報「技術士東北ーガイヤパラダイムー」を7月と1月の2回発行した。

## 2)-1 東北本部 青森県支部

### 活動方針

- ・ 公益社団法人の正会員としての認識の下で、学術・関連団体との連携・協力を図る。
- ・ 幅広い技術分野の視点で、研修会・見学会を開催し、会員の技術研鑽を図る。
- ・ 昨年度に引き続き、活動キーワードを東北本部 10 年ビジョンにある「安全文化」

### ② 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 年次大会を 2025. 6. 21 に開催した。（参加者 50 名）
- ・ 支部長を含め 17 名の幹事と 5 名の委嘱委員による支部役員会を 3 回開催した。

### ③ 行事

- ・ CPD 研修会を主催で 2 回実施した。（6/21, 11/1）。
- ・ 共催で 1 回(11/5)、協賛で 1 回(8/8)の研修会を実施した。
- ・ 見学会を主催で 1 回(10/1)実施した。

### ④ その他

- ・ 青森大学の「八甲田山新湯再生プロジェクト」に関して、2025 年度は 8/18～25 の合宿に幹事 3 名が参加して技術支援を行い、新湯の浴槽補修作業を行い復元することができた。大学生等との交流を進めるとともに若い世代にも技術士の役割を周知する機会となった
- ・ 10 月 7 日に青森県支部会報「技術士」作成会議を WEB 会議により実施。
- ・ 2025 年度青森県支部会報「技術士」を 12 月に 700 部発刊した。

## 2)-2 東北本部 岩手県支部

岩手県支部では、次の方針に基づき継続的に各種活動を展開した。

東日本大震災の経験を踏まえつつ、近年多発する台風や豪雨等による大規模災害への備えも重要な課題と認識し、改めて多様な災害への見識を深め、公衆の安全、福利の確保につながる活動に努める。

ビッグデータ、AI や IoT をはじめとするデジタル情報技術の進化に敏感に対応する意識を醸成する。

産学官のみならず、その枠組を超えた様々な活動を通じて技術士制度を広く PR するとともに、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

継続教育（CPD）について、講演会や倫理研修を継続するほか、その他の研修内容についても検討を進める。

### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

年次大会：2025 年 7 月 5 日（土）支部会員 28 名の本人出席により年次大会を開催した。

役員会：隔月 6 回開催し、事業計画や技術士相互の連携強化等について協議した。

委員会：2026 年度岩手県で開催される「地域産学官と技術士との合同セミナー」実行委員会を中心に、活動に合わせた会議等を 9 回開催した。

### ② 行事

支部（研究会含む）主催の講演会を 7 回、現場研修会等を 6 回開催した

### ③ その他

岩手県主催の「いわてまるごと科学・情報館」に協賛企業による展示・体験コーナーへの出展を行った。

## 2)-3 東北本部 宮城県支部

### ① 総務企画委員会

- ・ 各種委員会活動の連携調整、イベント開催の企画・調整  
コロナ禍で浸透した Web 併用方式の導入により、例年どおり活動できた。  
東北本部政策事業委員会に宮城県支部委員として参画した。
- ・ 関係機関及び地方自治体と調整し、活動の場を創出する  
宮城県との防災協定による 2025 年度の要請はなかった。
- ・ 会員の把握、未加入技術士の会員加入促進（東北本部との連携）  
年度初めに統括本部の HP にて確認した。  
新加入をお願いした技術者はいなかった。

### ② 広報委員会

- ・ 宮城県支部ホームページの維持管理  
支部長挨拶・支部役員・支部委員会メンバー・活動紹介等の更新  
支部委員会の講演会、見学会の情報発信  
建設コンサルタンツ協会東北支部のホームページとリンクを貼った
- ・ G A I A への投稿依頼  
ガイア 82 号支部活動報告投稿依頼、編集・校正

### ③ 支部における年次大会（全体会合）・役員会・各委員会活動

- 令和 7 年度第 14 回宮城県支部年次大会について、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で 6 月 6 日（金）、せんだいメディアテークにて開催した。  
支部長を含め 24 名で構成される役員による支部役員会は 5 回を開催した。  
防災委員会、環境委員会、技術委員会、豊年技術士懇談会は、研修会、講習会、見学会等の CPD 行事を企画実施した。  
環境委員会が相互の研修会及び意見交換会を 7 回開催した。

## 2)-4 東北本部 秋田県支部

技術士会員相互の交流や関係組織との連携を強化し、研鑽、資質向上を図るとともに、公益社団法人として対外的な要請に対応できる組織としての運営を方針として、活動した。

### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 年次大会 2025 年 6 月 26 日（木）14:00～ 参加者 44 名
- ・ 支部役員会を 4 回開催した。
- ・ 企画広報委員会は支部の活動報告を「GAIA」へ投稿した。

### ② 行事

- ・ 秋田県支部主催の CPD 研修会 4 回、見学会 1 回を開催した
- ・ 技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した

### ③ その他

- ・ 秋田工業高等専門学校にて技術士制度についての啓発活動を行った（東北本部青年技術士交流委員会主催）。
- ・ 秋田産学官ネットワークへ参加（産学官連携フォーラム 2025 ブース出展等）した。
- ・ あきた J A X A クロスイノベーション研究会へ参加した。
- ・ 第 9 回秋田県ため池等整備技術検討委員会への委員派遣（山正昭 氏：農業・総合技術監理）。
- ・ 秋田県鹿角建設部主催「令和 7 年度鹿角地区建設研修会」への講師派遣（藤田勝 氏）

## 2)-5 東北本部 山形県支部

### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 令和7年7月4日に、令和7年度山形県支部年次大会を開催した。
- ・ 支部長を含め19名で構成する役員による支部役員会を4回開催した。
- ・ 総務委員会は、年次大会の準備、運営を行った。
- ・ 広報委員会は、山形県支部HPの更新、GAIA原稿、各講座、現場研修会、年次大会等の報告原稿作成を行ったほか、「技術士インタビュー」の成果を取りまとめ配信した。
- ・ 技術委員会は、会員の技術力の維持向上、県内技術者の資質向上並びに技術士合格者の拡大を目的に、6月12日に受験体験研修会を実施したほか、7月4日に年次大会研修会、10月16日～17日に現場研修会、12月12日に技術教養講座を開催した。
- ・ 倫理委員会は、会員の技術者倫理向上のため「技術者倫理ワークショップ」を2回開催した。
- ・ 社会学習委員会は、建設産業従事者の減少が顕著となっている中で、次世代を担う子供たちに科学技術の原理や面白さを説明し、「土木」、「防災」に関心を持ってもらうことを目的として、地域の小中学校等を対象とした出前授業を3回実施した。また、山形県建設業協会米沢支部青年部主催の「おきたま未来の建設フェスタ」にブースを出展した。

### ② 行事

- ・ 支部年次大会時の基調講演の他、研修会、講演会等の行事を計4回開催した。

### ③ その他

- ・ 6月27日～28日に鶴岡工業高等専門学校専攻科の『実践的デザイン工学実習』に講師2名を派遣した。
- ・ 6月9・10日に(一社)山形県建設業協会主催の『一級土木施工管理技術検定試験(一次)受験準備講習会』に講師4名を、9月9日に同主催の『一級土木施工管理技術検定試験(二次)受験準備講習会』に講師4名をそれぞれ派遣した。

## 2)-6 東北本部 福島県支部

福島県支部10年ビジョンの目標達成のため、および技術士の知識の向上などを目的として、総務委員会、広報委員会、技術委員会、CPD研修委員会の4つの委員会協働の下、活動した

### ① 年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 2025年7月5日（土）第14回年次大会 出席者40名
- ・ 役員会3回、広報委員会2回、技術委員会は2回、CPD研修委員会3回
- ・ 自然環境学習2回（須賀川三小）、出前授業1回（いわき翠の杜高等学校）こども理科実験教室（小学生）1回

### ② 年間行事

- ・ CPD研修会5回開催（2025年4月、7月、10月、11月、2026年1月）
- ・ 機関誌「たくみ26号」を発刊（2026年3月）

### ③ その他

- ・ ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会主催の資格「ふくしまME（基礎）（防災）（保全）」への講師派遣 3時期（2025年6月、10月、11月）
- ・ 東北本部建設部会と共催による技術研修会 1回（2026年1月）

### 3) 北陸本部

北陸本部では、ほぼ計画通り会議、講演会等を開催した。9月には第54回日韓技術士国際会議の新潟市に於いて開催、さらに第52回技術士全国大会開催に向けて実行委員会を2回開催した。

#### ① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、7月に新潟市で開催し、記念講演と2025年度地域表彰式も併せて実施した。
- ・役員会は、WEB併用形式で2回、対面会議により1回の計3回を開催した。
- ・委員会は、教育広報委員会3回、ホームページ小委員会1回、青年技術士交流委員会6回、試験業務支援委員会1回、防災委員会1回を開催した。

#### ② 行事

- ・年次大会の翌日に、現地見学会（東邦アーステックプラント見学）を開催した。
- ・北東アジア等との交流拡大に関する研究グループでは、8月に講習会を開催した。
- ・防災委員会は、9月に富山市で、第10回防災講演会「能登半島地震からの教訓」をテーマとして講演会を開催した。
- ・日本海国土軸研究グループでは、11月に「日本海国土軸を活かした地方創生」をテーマとした講演会とパネルディスカッションを福井市で開催した。また、3月には、地域産業の展開研究グループにより、見学会（明星セメント㈱ 糸魚川工場、㈱有沢製作所 ARISAWA Innovation Center）及び企業研鑽会を開催した。
- ・青年技術士交流委員会は、2月に、『技術革新と人材育成で拓く担い手確保の未来～省力化と多様な人材活用～』をテーマに講演会を開催した。
- ・合格者祝賀会（新潟会場）5月・（金沢会場）を4月に開催した。

### 3)-1 北陸本部 富山県支部

技術の研鑽に向けた定例の講演会を実施したほか、技術士のPR、学生の理科離れ対策の一助として、中学校への出前講座を開催した。また、技術士の周知に向け、富山県内の高等教育機関（富山大学、富山県立大学）の学生に向けた技術士制度の説明会を実施したほか、若手の技術士の交流会を実施し、技術士増加、会員増加に向けた取り組みを行った。さらに技術士会のPRに向けた広報誌を発行した。

#### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・2025年度年次大会を7月22日に開催し、合わせて講演会を実施した。
- ・支部役員会は、5月、9月、1月に3回開催した。

#### ② 行事

- ・2025年7月（年次大会時）に「第45回講演会」、11月25日に「第46回講演会」、2月4日に「第47回講演会」を開催した。
- ・定例の講演会とは別に、ミニ講演会として、短時間の講演会を5月、10月に実施した。
- ・10月29日に「とやま若手技術士交流会」として、技術士による発表会を実施した。
- ・5月30日に富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科の学生を対象に「技術士制度講習会」を実施した。
- ・1月28日に富山大学都市デザイン学部の学生及び教員に対して、「JABEEの活用と技術士制度説明会」を開催した。
- ・

③ その他

- ・ 学生の理科離れ対策の一環として、技術士による出前講座を県内の中学校 3 校において各 1 回計 3 回開催した。
- ・ 富山県支部の活動等について、情報発信するツールとして会報誌第 2 号、第 3 号を発行した。

3)-2 北陸本部 石川県支部

技術士制度の普及・啓発のため、金沢大学と石川工業高等専門学校で説明会を開催した。また、技術系人材の育成のため、石川工業高等専門学校で技術者倫理と橋梁点検授業を実施した。さらに、技術士相互の連携・交流と技術研鑽のため講演会を開催した

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 第 1 回年次大会を 8 月 2 日に開催。同日、第 3 回講演会と意見交換会も実施した。
- ・ 支部役員会は、委員会と合同会議として、8 月、10 月、2 月に 3 回開催した。

② 行事

- ・ 8 月 2 日（年次大会時）に「第 3 回講演会」、2 月 14 日に「第 4 回講演会」を開催した。
- ・ 6 月 5 日、12 日、26 日、7 月 10 日、17 日に、石川工業高等専門学校の学生を対象に「技術者倫理の授業」を 5 回実施した。また、6 月 19 日に、「技術士制度説明会と合格体験談」を実施した。
- ・ 10 月 10 日、17 日に、石川工業高等専門学校の学生を対象に「橋梁点検授業支援」を実施した。
- ・ 10 月 15 日に、金沢大学の学生を対象に「技術士制度説明会と合格体験談」を実施した。

③ その他

- ・ 第 52 回技術士全国大会（石川・北陸）に向け準備委員会を組織し、大会プログラムや会場手配等の準備を精力的に実施した。

4) 中部本部

2025 年度は、2024 年度と同様に、外部への認知度向上や設定した事業展開の基本方針を踏まえて、中部本部傘下四県支部、委員会そして部会の活性化を目的とした事業展開を推し進めた。ここ数年間で蓄積された WEB 利用技術も向上し、さらにハイブリッド方式（対面+WEB）での会議、セミナーも普通に行われるようになった。

② 年次大会・役員会・委員会活動

- ・ 第 13 回年次大会は、7 月 26 日に対面で開催した。
- ・ 本部長を含む 40 名で構成された中部本部役員会を 7 回開催した。
- ・ 委員会は、倫理委員会 12 回、総務委員会 7 回、企画委員会 8 回、CPD 委員会 4 回、修習技術者支援委員会 5 回、青年技術士交流委員会 12 回、独立技術士交流委員会 6 回、広報委員会 5 回、活用促進委員会 6 回、PL 実践研究小委員会 12 回、防災支援小委員会 4 回、理科支援小委員会 4 回、試験業務支援委員会 3 回開催。以上、計 88 回開催した。

③ 行事

- ・ CPD 委員会担当のセミナーは夏季、秋季、冬季、春季の 4 回開催。講師・テーマ選定は、CPD 委員会で検討し決定した。春季講演会は、「技術士研究・業績発表会」

とした。

- ・ 修習技術者支援委員会による「中部本部修習技術者研究業績発表会」を2月に実施した。
- ・ 企画委員会による、技術士第一次・第二次試験合同合格者説明会を5月24日に対面で実施した。
- ・ 社会貢献(防災支援小)委員会、建設部会の講演会は6月、12月に開催した。以上を含め、委員会、部会による講演会は30回、見学会4回(機械部会1回、電気電子情報工学部会1回、経営工学部会1回、独立技術士交流委員会1回)を実施した。

④ その他

- ・ 理科支援小委員会は、理科実験授業研究会を4回開催。小・中学校での特別授業を55回実施した。
- ・ 外部依頼対応  
技術士紹介依頼9件、指導技術士紹介依頼0件、人材紹介依頼0件
- ・ 登録グループとして、‘よろず科学技術相談所’は、8回の定例会を開催し11件の技術相談に応じた。
- ・ 登録グループ「倫理実践力開発普及会」は、3回の例会を開催するとともに、内部プロジェクトチームの活動により、大学・高専の技術者倫理教育を継続。新たに増えたクラスに、育成した講師で対応。テクノロジーカフェも定期的に開催している。

4)-1 中部本部 愛知県支部

2025年度も、組織の活性化や会員サービスの向上などを目指した活動を継続して進めて来た。支部の役員の顔ぶれも大幅に変わり、それに加えて組織体制の見直しも行った。これまでの4委員会に加え新たに事務局を設け、随時事務局会議を開催して支部活動の取りまとめや、役員会で審議すべき事項などの方向付けを行った。支部としては他に、ほぼ例年通り役員会、委員会、年次大会、例会、ワーキンググループ活動、防災支援活動などを実施した。特に防災関係は、「愛知県災害復興支援士業連絡会」設立総会にて覚書への承諾書に署名するとともに、他の士業との連携を開始した。

いずれの会合もWebと対面の両方で実施するいわゆるハイブリッド方式はほぼ定着し、参加者募集方式として統括本部のWebシステムを用いた方法も定着した。しかし発信力強化やそれに伴う参加者数の拡大などは決して十分ではなく、今後の課題と感じた。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・ 支部役員会を6回開催、企画研修委員会を1回開催、活動支援委員会を2回開催、防災委員会を4回開催した。

② 行事

- ・ 支部年次大会を開催した。
- ・ 企画研修委員会による見学会と業績発表会を開催した。
- ・ 活動支援委員会によるワークショップを開催した。
- ・ 防災委員会は、中部本部建設部会主催及び中部本部防災支援小委員会と共催で、講演会を2回開催した。

③ その他

- ・ 食問題研究会：食に関わる問題の研究及び自己研鑽を11回実施した。

- ・ 企業活動研究会：環境・品質・安全と I S O 国際規格など企業活動に関する諸問題の研究を 11 回実施した。
- ・ わいがやフォーラム：地域・中小企業支援、技術者の技術テーマについての議論を 12 回実施した。
- ・ 愛知県災害復興支援士業連絡会に加盟し、その定例会に 4 回出席した。

#### 4)-2 中部本部 岐阜県支部

- ・ 前年度に引き続き、組織と技術士の認知度を上げることを目標に活動をしてきた。社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、幅広い分野の講師による講演会の企画・開催を行った。
- ・ 岐阜県支部における年次大会（全体会合）、役員会・委員会活動を実施した。
- ・ 役員会は 7 回行った。また、各委員会を同時開催で実施した。
- ・ 中部本部の各種部会・委員会に委員を派遣し協力している。

##### ① 行事

- ・ 講演会活動を年間 6 回、会場開催と WEB のハイブリットにて行った。
- ・ 例会は、会場と WEB のハイブリットにて 6 回開催し、合計 180 名の参加があった。
- ・ 例会後の懇親会においても延べ 109 名の参加があり交流を深めた。

##### ② その他

- ・ 岐阜県商工労働部主催の「地域経済情報交換会」（4 回）に出席した。
- ・ 岐阜県士業連絡協議会の役員会に参加した。
- ・ 士業連絡協議会主催の「なんでも相談会」に相談員を派遣（岐阜市役所）した。
- ・ 岐阜県工業会主催の「ものづくり岐阜テクノフェア」及び総会に参加した。
- ・ テクノプラザ主催の TCA カンファレンスに参加した。
- ・ 弁理士知的財産セミナー新春交歓会に参加した。
- ・ 岐阜県 DX コンソーシアム総会に参加した。
- ・ 岐阜県支部の活性化委員会へ業務指導要請 1 件があった。
- ・ 岐阜県内の公益財団法人の交付審査会の委員（支部長宛職）を実施した。

#### 4)-3 中部本部 三重県支部

三重県支部は、以下の基本方針の下、会員と社会の皆様方に喜んでいただける会を目指しています。2025 年度は、以下の基本方針の下、以下の行事を主催しました。

##### 【三重県支部の基本方針】

会員のため、そして社会のための会を創ります。

明るく楽しく役に立つ会を創ります。

ステークホルダーの皆様方とウィンウィンを実現します。

##### 【三重県支部主催行事】

年次大会：年 1 回（2025/6/21）

倫理セミナー：年 1 回（2025/4/12：協力 中部本部倫理委員会：ウェブ開催）

技術士と三重大学の先生によるセミナー：年 3 回（2025/6/21、2025/10/11、2026/1/10）

みえテクノロジーカフェ（at MG-YOKKAICHI／飲食をしながらリラックス）：年 4 回

会報みえ発行（三重県支部の会員向け）：適宜発行

#### 4)-4 中部本部 静岡県支部

前年と同様に、技術士のアピールを主体として運営してきた。会員の皆様の利便性

を考慮し、講演会は対面式とオンライン同時配信するハイブリッド講演会を開催してきた。

① 年次大会（全体会合）・役員会

- ・年次大会は5月31日（土）に会場＋オンラインのハイブリッドで開催した。
- ・支部長以下役員による支部役員会を会場およびオンラインのハイブリッドで6回開催した。

② 行事

- ・講演会（例会）を4回（ハイブリッド方式）開催した。
- ・見学会を1回開催した。
- ・合格者説明会は6月14日（土）に開催、第一次試験合格者1名、第二次試験合格者5名、既会員6名の合計12名が参加した。
- ・「第45回地域産学官と技術士との合同セミナーIN SHIZUOKA 2025」を12月13日に開催、68名が参加した。

③ その他

- ・静岡県災害対策士業連絡会の理事会に参加し会員相互の交流の拡充とスキルの向上を図った。
- ・テクノロジーカフェは6回開催した（オンラインおよびハイブリッド配信）。
- ・会報「技術士しぞーか」は会員相互の情報共有と関連団体への周知の拡充を図るため4回発行した。

5) 近畿本部

地方創生と地域産業発展に寄与できる技術の研鑽の「場」の提供を、活動方針の主目的として、オンライン活用を図りながら、以下の活動を実施した。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月28日（土）に、近畿本部2025年度年次大会をオンライン併用で開催した（参加者83名）。
- ・本部長を含む35名で構成される近畿本部役員会議を、原則奇数月の第二火曜日に、計6回（対面2回、オンライン併用4回）開催した。
- ・委員会は、総務・企画委員会6回、修習技術者支援委員会8回、研修委員会2回、青年技術士交流委員会6回、防災支援委員会13回、海外活動支援委員会2回、合格者祝賀会委員会2回、倫理委員会3回、協賛団体強化委員会6回、試験業務支援委員会2回、技術士活性化委員会7回、地域連携強化委員会12回、産学官と技術士との合同セミナー（大阪）実行委員会10回、万博参画準備委員会8回開催。以上、合計87回開催した。

② 行事

- ・2026年2月7日（土）に、第45回地域産学官と技術士との合同セミナー（大阪）（「万博で見た未来の共創－新技術の事業化・社会への展開－」）を開催した（参加者92名）。
- ・2026年1月18日（日）に、防災・減災シンポジウム、第19回災害対策セミナー（「過去の大規模災害の振り返りと南海トラフ地震時の被災者の生活を考える」）をオンライン併用で開催した（参加者124名）。
- ・2026年1月31日（土）に、近畿本部倫理シンポジウム2026（「創作事例から技術者倫理の実践を学ぶ」）をオンライン併用で開催した（参加者196名）。
- ・2026年2月5日（木）に、第11回近畿本部協賛団体特別セミナー（「技術開発にお

ける昨今の知的財産権事情」をオンライン併用で開催した（参加者 50 名）。

③ その他

- ・ 技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・ 近畿本部の広報誌「きんき」を 6 回発行した。

5)-1 近畿本部 兵庫県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 7 月 6 日に 2025 年度年次大会および年次大会記念講演を開催した。
- ・ 役員会は Web 会議を併用して 5 回開催した。
- ・ 広報誌編集委員会 6 回（内 Web 会議 6 回）、科学技術支援委員会 5 回、三役会 1 回の合計 12 回開催した。
- ・ 科学技術支援委員会による小学校への特別授業（クラブ活動支援を含む）を 13 回（授業のコマ数 22）実施した。
- ・ 防災支援委員会による小学校への特別授業 1 回（授業のコマ数 10）実施した。
- ・ 毎月 1 日に安否確認訓練を実施した。

② 行事

- ・ 県支部主催 CPD 講座を 8 回開催した。内 2 回は現場視察を行なった。
- ・ 2025 年 9 月 4・5 日に「国際フロンティア産業メッセ」（主催：国際フロンティア産業メッセ実行委員会）に近畿本部活性化委員会とともに出展及び会場対応をした。
- ・ 2026 年 1 月 18 日に近畿本部主催、兵庫県支部協力で「第 19 回災害対策セミナー」を開催した。

③ その他

- ・ 兵庫県支部の広報誌「支部だより」の第 27 号を 5 月 1 日、第 28 号を 9 月 1 日、第 29 号を 2026 年 1 月 1 日に発行した。

6) 中国本部

① 地域本部における年次大会・役員会・委員会・部会活動

- ・ 7 月 12 日（土）に年次大会と中国本部創立 60 周年記念式典を併せて、会員 996 名のうち広島会場に会員 94 名、オンラインで他地域本部からの会員も含めて 41 名、合計 135 名が参加して集合形式とオンラインのハイブリッド方式で開催した。
- ・ 35 名で構成される中国本部役員会をハイブリッド方式で 5 回・書面議決で 9 回開催した。
- ・ 部会活動の活性化による会員拡大を目的に、全 8 部会のうち建設部会・機械部会は年 2 回、その他 6 部会は年 1 回の講演会をハイブリッド方式で開催し、必要に応じて鳥取・島根・岡山・山口の 4 拠点で集合形式の Web 中継を行った。
- ・ 企画総務、事業、広報、試験支援、活用促進、防災、修習技術者支援、社会貢献、男女共同参画推進、倫理の 10 委員会では年 1~3 回程度の委員会を、また、青年技術士交流委員会は 1 回/月のペースで委員会（講演会を併催）をハイブリッド方式で開催した。防災委員会は、矢野公民館、川内集会所、己斐小学校、廿日市市民活動センターで防災教育を行った。
- ・ 本部長、副本部長、事務局長、事務局次長、事務局員等で構成された「事務局会議」を 8 回ハイブリッドで開催した。

② 行事

- ・ 4 月 19 日（土）に 2024 年度技術士第一次・第二次試験合格者ガイダンス・記念講演

会をハイブリッドで開催した。広島会場に会員 81 名、オンラインで他地域本部からの会員も含めて 84 名。参加者 169 名のうち第一次試験合格者 15 名、第二次試験合格者は 14 名であった。

- ・ 県支部・委員会・部会が CPD の為に開催した講演会は 73 回(内ハイブリッド 35 回、Web 中継 38 回)を数え、CPD 211 時間、延 3834 名の参加を得た。
- ・ 見学会は 4 回開催し、延 67 名の参加を得た。
- ・ 社会貢献活動の一環として、社会貢献委員会は、広島県安芸太田町の小中学生を対象に理科教育を 2 回開催した。

③ その他

- ・ 技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・ 中国本部会報を 2 回(5 月・12 月)発行した。

6)-1 中国本部 鳥取県支部

鳥取県支部の活動は、現場見学会を 5 月と 10 月に実施した。そのほか、鳥取県から依頼された防災士養成研修の講師派遣、防災や科学実験などをテーマとした鳥取県主催イベントへの参加、鳥取大学、鳥取環境大学での技術士の講演など実施した。

① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・ 2025 年 7 月 5 日(土)に年次大会を開催した。
- ・ 支部長を含め 15 名で構成される役員会議を 5 回開催した。
- ・ 地域活動として県主催の防災士養成講座への講師派遣。

② 行事

- ・ 2024 年度 技術士第一次・二次試験合格セミナーと合格者祝賀会を 5 月 24 日(土)に開催した。参加者 24 名。

③ その他

- ・ 4/6 修習等セミナー(倉吉市) 研修参加者 35 名
- ・ 5/14 春の現場見学会(岩美町) 見学会参加者 14 名
- ・ 7/3 鳥取大学技術者倫理(鳥取市) 技術士 3 名派遣 研修参加者 120 名
- ・ 8/8 理工系チャレンジ応援イベント 技術士 7 名派遣 来場者 100 名
- ・ 9/20 とっとり防災フェスタ(米子市) 技術士 15 名派遣
- ・ 10/6 防災学習\_あじさいの会(鳥取市) 技術士 2 名派遣 参加者 15 名
- ・ 10/7 秋の現場見学会(倉吉市) 見学会参加者 11 名
- ・ 10/12 防災士養成講座(鳥取市) 技術士 7 名派遣 研修参加者 70 名
- ・ 10/15 防災学習\_青翔開智中学校・高等学校 技術士 1 名派遣
- ・ 11/19 防災学習\_あおば地区 技術士 1 名派遣
- ・ 12/14 防災士養成講座(米子市) 技術士 7 名派遣 研修参加者 70 名
- ・ 12/8 公立鳥取環境大学キャリア教育(鳥取市) 技術士 4 名派遣 学生 140 名

6)-2 中国本部 岡山県支部

今年度は、倉敷市で開催した「日本海・瀬戸内海・太平洋 縦断 技術士会(岡山大会)」が大きな行事であり、年次大会・例会は例年通りの開催を行った。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・ 7/22 会員 37 名が出席して年次大会を開催した。
- ・ 支部長を含め 22 名で構成されている支部役員会を 5 回開催した。
- ・

② 行事

- ・ CPD 研修会（防災講演会・現地見学会を含む）を 6 回開催した。
- ・ 技術士一次試験及び二次試験合格者の祝賀会を開催した。

③ その他

- ・ 津山工業高等専門学校との連携事業（キャリア教育支援・女子会後援会・先端技術特別講義）を行った。
- ・ 岡山理科大学との連携事業（技術士制度説明会・女子学生との交流会・出前授業）を行った。

6)-3 中国本部 山口県支部

集合型式に軸足を置きつつもオンライン型式を併用した行事に取り組んだ。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 年次大会は、8 月 9 日に 45 名（会員 43 名、非会員 2 名）が参加して、集合型式およびオンライン型式併用で開催し、続いて記念講演会を行った。
- ・ 支部長を含め 18 名で構成される役員による支部役員会を 3 回開催した。
- ・ 支部長、副支部長、事務局、参与で構成されるメンバーによる事務局会議を 3 回開催した。
- ・ 企画総務委員会・事業委員会および事務局は、山口県支部の行事開催の準備を行うとともに、役員会に諮る議案の検討を行った。
- ・ 広報委員会は、広報活動の企画・実施、ホームページによる情報提供を行った。
- ・ 防災委員会は、中国本部の防災委員会行事に参加するとともに、11 月 1 日に県内の自然災害伝承地探訪を行った。
- ・ 修習技術者支援委員会は、徳山工業高等専門学校主催のキャリア・デーに参加し、そこで技術士制度の説明および受験ガイダンスを行った。

② 行事

- ・ 6 月 14 日に CPD 行事（2024 年度技術士第一次試験合格者ガイダンス兼技術士第二次試験合格者祝賀記念講演会）を、集合型式およびオンライン型式併用で開催した。（会員 31 名、新合格者 2 名、合計 33 名）
- ・ 10 月 18 日に CPD 行事（2025 年度第 1 回テクノ・サロン）を、集合型式およびオンライン型式併用で開催した。（会場参加 21 名、オンライン参加者 11 名、合計 32 名）
- ・ 1 月 24 日に CPD 行事（2025 年度第 2 回テクノ・サロン）を、集合型式およびオンライン型式併用で開催した。（会場参加 25 名、オンライン参加者 11 名、合計 36 名）
- ・ 12 月 6 日にテクニカル・ツアー（宇部市内の製造技術を巡る）を、集合型式で開催した。（参加 6 名）

③ その他

- ・ 徳山工業高等専門学校との連携協定による実践活動として、技術士制度の普及および技術者育成を図る目的で 3 回の協議を行った。
- ・ 支部活動の更なる活性化のために中国本部からの CPD 事業の web 中継を 13 回行った。
- ・ 山口市大内地域において、8 月 1 日に小学生対象（13 名参加）で青年部 8 名が「子ども科学体験教室（ポンポン船を作ろう）」を実施した。また、室積コミュニティセンターにおいても、8 月 6 日に小学生対象（13 名参加）で青年部 6 名が「子ども科学体験教室（ポンポン船を作ろう）」を実施した。さらには、防府市小野小学校においても、10 月 3 日に小学生対象（13 名参加）で青年部 8 名が「子ども科学体験教室

(ポンポン船を作ろう)」を実施した。

- ・徳山工業高等専門学校および宇部工業高等専門学校に対して「倫理教育支援」を実施した。

## 7) 四国本部

四国本部ビジョンで掲げる“4つの事業方針”に基づき、次の事業を実施した。

### ① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月14日に高松市で正会員441名のうち65名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め30名の幹事で構成される役員会を4回開催した。
- ・総務（正副委員長会議）、事業、広報、修習技術者支援、防災、青年技術士交流、試験業務支援の7常設委員会及び倫理、男女共同参画推進の2小委員会では、それぞれ数回の委員会（WEB会議、勉強会を含む）を開催した。
- ・各委員会が講演会・見学会の開催等のCPD行事を中心に活動を行うと共に、社会貢献活動にも取り組んだ。

### ② 行事

- ・10月3日に高知市で第45回地域産学官と技術士との合同セミナーを開催した。
- ・12月5～6日に松山市で例会（忘年会、見学会併催）を開催した。
- ・CPDセミナー・公開講座及び修習技術者支援セミナー、防災セミナー、青年技術士交流会を各県持ち回りで開催した。
- ・防災見学会・意見交換会及び技術者倫理セミナーを高松市で開催した。
- ・男女共同参画推進連絡会議「四国なでしこ技術サロン」を徳島市で開催した。
- ・令和6年度技術士第二次試験合格者祝賀会を四国4県の会場で開催した。
- ・令和6年度技術士第一次試験合格者祝賀会を松山市で開催した。
- ・統括本部の委員会が主催する講演会等にWEB中継で参加した。

### ③ その他

- ・技術士試験（香川会場）の実施を支援した。
- ・四国本部会報を2回発行した。
- ・JABEE認定課程教員・学生に対する「技術士制度説明会」を徳島大学理工学部、高知工科大学、愛媛大学農学部で実施した。
- ・香川県教育委員会が実施する「学校防災アドバイザー派遣事業」に協力した。
- ・香川高等専門学校との包括連携・協力に関する協定に基づき「学生のキャリア支援のための出前授業」を実施した。
- ・香川大学等が主催する児童生徒向けの「科学体験フェスティバル」にブース出展した。
- ・宇多津町「児童館」で理科教室を実施した。
- ・愛媛県専修学校各種学校連合会主催の「お仕事フェスタ」職業ガイダンスブースに参加した。

## 7)-1 四国本部 高知県支部

### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会活動

- ・6月20日に高知会館にて、会員38名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め18名の幹事で構成される役員会を6回開催した。

### ② 行事

- ・10月3日に高知市で第45回地域産学官と技術士との合同セミナーを開催した。

- ・ 四国本部と共催し、CPD セミナー・公開講座、修習技術者支援セミナー、防災セミナー、青年技術士交流会を開催した。
- ・ CPD セミナー・公開講座に合わせ、令和 6 年度技術士第二次試験合格者祝賀会を開催した。
- ・ 太平洋・瀬戸内海・日本海縦断 5 県技術士交流会（岡山）を共催した。

③ その他

- ・ 高知県支部会報「PE こうち第 5 号」を発行した。
- ・ JABEE 認定課程教員・学生に対する「技術士制度説明会」を高知工科大学で実施した。
- ・ 高知県等が主催する「地域防災フェスティバル」及び「防災フェスタ」に参加した。

8) 九州本部

2025 年度は、10 月第 51 回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）（627 名参加）を開催した。このほか熊本の先進建設・防災減災フェア in 熊本 2025」（316 名ブース参加）の開催、新たに久留米で小学生防災教育（児童 246 名）、技術士制度の講義 4 大学、1 高専、1 高校（総勢 409 名）を実施など対外的行事活動に取り組んだ。

会議、講演会では WEB 方式の習熟が進み、オンラインのみ、または併用が進んだ。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 年次大会は、人数制限の会場と WEB 方式を併用し、配布資料も HP に公開した。
- ・ 役員と支部長が参加する合同役員会を 3 回（7 月、11 月、4 月）、県支部長会議を 1 回（9 月）、三役会議を 1 回（2 月）開催した。これに伴う事務局会議、打合せ等を 68 回開いた。
- ・ 総務企画・広報・地域産業支援・研修・倫理・防災・青年技術士交流、北九州地区支部支援、試験業務支援の 9 委員会、みどり・建設・環境・ものづくりの 4 部会で会議等 47 回、講演会 24 回、見学会 6 回を開催した。
- ・ 全国大会開催に向けて実行委員会 5 回、開催後 1 回を開催した。
- ・ 国交省九州地方整備局の要請に応じて、W/G で事前取りまとめの上、新技術活用評価会議へ 2 回参加した。

② 行事

- ・ 研修委員会では、例年の CPD3 回及び 12 月度 CPD を開催した。
- ・ 防災委員会では、小学生防災教育を新たに久留米市内 1 小学校（4 年生・5 年生（児童 200 名、教師 10 名、PTA8 名）で開催した。熊本では県支部と協力し「先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2025」（ブース参加者 316 名）など対外的活動を進めた。
- ・ 青年技術士会では、合格者祝賀会のほか、県支部と協力して大学・高専・高校の 6 校で技術士制度の講義、説明会を実施した。
- ・ 北九州地区支援委員会では 8 月を除く毎月、CPD（12 月は公開講演会）を開催した。
- ・ ものづくり部会では、「全国大会併催機械部会」の準備、運営のほか、例年の CPD を 4 回開催（うち 12 月度は研修委員会と共同）、3 回はオンラインのみとし、経費の節減とともに参加者の増大、広域化を図った。

③ その他

- ・ 全国大会及び関連行事の開催にあたり、各委員会、部会が中心となり運営スタッフとして支援活動した。
- ・ 広報委員会では、技術士だより九州の発行（年間 4 号）のほか、全国大会記念誌

及び、実施報告書の編集発行を行った。また九州本部 HP の自主運営、更新を担当し、この中で全国大会開催情報の公開、受付などの広報を行った。

- ・ 地域産業支援委員会では、技術相談の活性化（キーワード検索のヒット数増大）のため、専門分野の技術論文を公開（現在 19 編）した。
- ・ そのほか役員会、委員会、部会でも WEB 方式を併用した会議・講習会、見学会、試験業務支援など例年の活動を実施した。

#### 8)-1 九州本部 大分県支部

##### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ CPD 担当準備会を 6 月 4 日に行った。
- ・ 会計監査を 6 月 5 日に行った。
- ・ 6 月 21 日に年次報告会と CPD 研修会(1unit：出席者 43 名)をコンパルホールにて開催した。同日技術士試験一次、二次合格合同祝賀会を実施した。
- ・ 1 月 24 日に中間報告会と CPD 研修会(1unit：出席者 28 名)をトキハ会館で開催した。
- ・ 大分県支部役員会を、5 月 2 日、6 月 7 日、6 月 21 日、9 月 6 日、11 月 15 日、12 月 9 日、1 月 24 日に 7 回開催した。

##### ② 行事

- ・ 6 月 7 日に 2025 年度第 1 回 CPD 研修会(6unit：出席者 131 名)を、9 月 6 日に 2025 年度第 2 回 CPD 研修会(6unit：出席者 122 名)を、11 月 30 日に 2024 年度第 3 回 CPD 研修会(6unit：出席者 95 名)を、WEB 型と集合型を併用して大分県教育会館にて開催した。
- ・ 10 月 26 日に現地見学会（全国大会・九州沖縄・熊本大会への参加：参加者 5 名）を行った。
- ・ 3 月 11 日に各県支部連絡会（WEB ホスト大分県支部）を行った。

#### 8)-2 九州本部 鹿児島県支部

##### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 7 月 19 日：年次大会を開催した。
- ・ 支部役員会を 4 月 10 日、6 月 2 日、7 月 21 日、11 月 1 日に開催した。
- ・ 業務企画委員会を 5 月 10 日、研修委員会を 6 月 20 日、9 月 18 日に開催した。

##### ② 行事

- ・ 5 月 10 日：第 46 回 CPD 講演会（出席者 42 名）
- ・ 技術士第一次試験・第二次試験合格祝賀会開催（出席者 13 名）
- ・ 7 月 19 日：第 47 回 CPD 講演会（出席者 24 名）
- ・ 11 月 1 日：第 48 回 CPD 講演会（出席者 32 名）
- ・ 2026 年 2 月 7 日：第 49 回 CPD 講演会（出席者 39 名）を開催した。

##### ③ その他

- ・ 3 月 29 日：技術士第二次試験受験申込書を配布した。
- ・ 6 月 18 日：令和 6 年度技術士第二次試験合格者を中心に 36 名に対し入会案内を行った。
- ・ 6 月 9 日：技術士第一次試験受験申込書を配布した。
- ・ 6 月 17 日：鹿児島大学農学部において「技術士及び技術士制度説明会」を実施し（参加者 52 名）、併せて技術士第一次試験受験申込書を配布した。

- ・ 11月18日：鹿児島大学工学部において九州本部青年技術士交流委員会主催の「技術士及び技術士試験制度」説明会に協力参加した。
- ・ 2026年1月5日：第一工科大学工学部（霧島市）において九州本部青年技術士交流委員会主催の「技術士及び技術士試験制度」説明会に協力参加した。
- ・ 2026年3月26日：技術士第二次試験受験申込書を配布し、併せて郵送配布も実施した。
- ・ 支部独自の「鹿児島県支部だより」（第29号～第32号）を会員に配信した。

#### 8)-3 九州本部 宮崎県支部

##### ① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 5月31日年次大会と技術士第一次、二次試験合格祝賀会を対面集合方式で開催した。（出席者22名）
- ・ 支部役員会を2回開催した。

##### ② 行事

- ・ 第1回講習会(CPD)（9月13日）（出席者18名）、
- ・ 第2回講習会(CPD)（11月29日）（出席者17名、リモート5名）、
- ・ 第3回講習会(CPD)（令和8年2月21日）（出席者9名、リモート2名）を対面集合方式とリモート（試行）にて開催した。

##### ③ その他

- ・ 11月8日、9日にショッピングモールで開催された宮崎県土木の日実行委員会主催の「土木の日」各種行事に参加し技術士会の社会貢献、知名度向上を図った。

#### 8)-4 九州本部佐賀県支部

##### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 年次大会  
日時：2025年5月22日（土）13時～  
場所：メートプラザ佐賀 大会議室 正会員20名で実施した。
- ・ 役員会を5回開催した。（5/22、7/17、9/18、11/27、2/12）

##### ② 行事

以下の行事を開催した。

- ・ 2025年度 第1回CPD（技術懇話会）：5月22日（土）40名参加
- ・ 2025年度 技術士CPD：9月18日（木）15名参加
- ・ 2025年度 第2回CPD（技術懇話会）：11月20日（木）30名参加
- ・ 早稲田大学技術士稲門会との合同見学会：10月25日（土）12名参加
- ・ 令和7年度九州地区森林技術者講習会（佐賀会場）：11月7日（金）約140名参加
- ・ 大分県支部との合同CPD：11月15日（土）佐賀県支部役員参加
- ・ 2025年度 佐賀大学への技術士制度の説明会：6月16日（月）都市工学科 約100名
- ・ 佐賀県立致遠館高への技術士制度の説明会：9月25日（木）約120名
- ・ 佐賀大学への技術者倫理に関する説明会：11月12日（月）都市工学科 約90名

##### ③ その他

- ・ 広報活動 佐賀建設新聞新春特集号投稿（2026年1月1日）
- ・ 大分県支部と佐賀県支部との隣県同士連絡会議（WEB）：8月30日（土）
- ・ 九州本部各県支部連絡会（WEB）：3月11日（水）

8)-5 九州本部 熊本県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 第12回の年次大会を、KKRホテル熊本で2025年6月14日開催した。
- ・ 技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会（合同）を、KKRホテル熊本で2025年6月14日に開催した。
- ・ 支部長を含めて10名で構成される役員による支部役員会議を対面3回、書面1回開催した。

② 行事

- ・ 支部会員を主体としたCPDを6月14日、7月26日、10月11日、2月21日に開催した。
- ・ 崇城大学（2025年12月15日）、熊本大学（2025年11月13日・11月17日）にて、技術士制度についての説明会を実施した。
- ・ 2025年11月19日～11月20日開催の「先進建設・防災減災フェア in 熊本 2025」に出展参加した。
- ・ 2025年10月25日～10月28日開催の「第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）」に、九州本部大会実行委員会と連携し、積極的に対応した。

8)-6 九州本部 長崎県支部

① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会

- ・ 6月7日（土）、支部会員136名のうち36名が出席して年次大会を開催した。同日第一次・第二次試験合格者合同の祝賀会を開催した。
- ・ 幹事会を6回（4, 5, 8, 10, 12, 2月）開催した。

② 行事

- ・ 研修会4回（6, 9, 11, 1月）、見学会2回（5, 2月）のCPD行事を開催した。第3回、第4回CPD研修会は、ハイブリッド方式で実施した。

③ その他

- ・ 2025年7月31日（月）佐世保工業高等専門学校において技術士4名による「技術士制度について」の出前講座を実施した。

## (5) 関東甲信地域の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、関東甲信地域における県支部相互の連絡協調及び県支部活動の活性化に資するため、支部長会議を開催した。各県支部での年次大会等の会合の回数、県支部における主な講演会等及び見学会は付属明細書を参照。

### 1) 茨城県支部

コロナ禍も落ちつき、講演会はハイブリッドで、交流会や見学会は従来通り実施した。および行事審議・報告等ではペーパーレス化が実施され、支部のDX化を進めた。

#### ① 全体会合

- ・ 3回(年次大会、新年講演会、技術士試験合同合格者祝賀会)開催した

#### ② 役員会・委員会活動

- ・ 茨城県支部役員会を12回開催し、県支部の運営について協議を行った。
- ・ 講演会・見学会・各委員会等の会合を61回開催した。
- ・ その他の行事等を39回開催した。

#### ③ 主な行事

- ・ 県の後援を得、いばらきオープンテクノフォーラムを開催(11月29日)、講師2名による講演、参加企業・団体数：40社でパネル展示等を行った。
- ・ 技術士CPD講座を3回、いばらきIoTコ・ラボ勉強会を3回実施した。
- ・ 見学会を4回(株式会社紀文食品 東京工場、株式会社フジキン ライフサイエンス 研究所、高砂熱学工業株式会社イノベーションセンター見学会、電力中央研究所塩原実験場、那須平成の森フィールドセンター、那須町余笹川ふれあい公園：平成10年那須水害現場、国土交通省国土地理院「地図と測量の科学館」)実施した。
- ・ “現役若手世代”技術士CPD行事補助費(企画員会)を活用して第7回目のWi-SE講演・ワークショップを実施した。(11月15日)

#### ④ その他

- ・ 支部活動紹介パンフレットの発行、会報を2回発行した。
- ・ 茨城県水戸生涯学習センター「おもしろ理科先生」及び土浦市チャレンジクラブ等11回依頼を受け実施した。
- ・ 茨城県霞ヶ浦環境科学センターの各種イベント及び土浦市環境展等に3回参加した。
- ・ 本部防災支援委員会及び建設部会にオブザーバ参加した。
- ・ 関東甲信地域県支部・建設部会意見交換会に参画、講演会をWeb中継にて継続開催した。

### 2) 栃木県支部

#### ① 総務委員会

年次大会、講演会、新合格者祝賀会、交流会を7月5日に開催した。参加者43名。支部長及び幹事14名で構成される役員会を6回開催した。

#### ② 企画・研修委員会

講演会等を次のとおり開催した。8月期建設部会と合同で、LRT見学会およびLRT講習会(講師：宇都宮市建設部部長矢野公久氏)。9月期(講師：(株)安田測量代表取締役安田晃昭氏)。12月期科学技術講演会(講師：宇都宮大学農学部教授山本美穂氏)。R8,2月期(日本技術士会DEI委員会瀬尾弘美氏)を開催した。

#### ③ 広報委員会その他

支部活動や会員の投稿による会報を8月(会報23号)、1月(会報24号)に発刊し

た。また、会員と対外広報として支部ホームページの更新・管理を行った

④ 男女共同参画推進委員会

- ・ 4 月、県内の女性技術者を対象にミーティングを開催、今後の活動について話し合った。
- ・ 11 月、技術サロン@栃木を本部の DEI 委員会の共催で開催した。埼玉県・群馬県からの技術士の応援の元、県内の女性技術士も参加し、技術士をめざす女性を対象とした技術サロンを開催した。参加者は少人数ながら、得ることの多い情報交換となった。
- ・ 1 月、宇都宮大学農学部農業環境工学科の講義内で技術士資格について栃木県支部幹事により説明。さらに、女性の技術士の現状と、アンコンシャスバイアスについて説明を行った。
- ・ 2 月、県支部の CPD 講習会として技術分野における DEI について、本部 DEI 委員会より講師を招き講演会を開催した。

⑤ 企業支援委員会

栃木県工業振興課，よろず支援拠点等との連携強化に向けた整合を行った。

また、栃木県工業振興課が推進する戦略 3 産業×未来 3 技術事業のセミナー／講演会情報提供を会員に行った

⑥ 国際委員会

- ・ 6 月に第 12 次訪中団（浙江省嘉興市、嘉善県、海寧市）に 7 名を派遣し、企業見学及び省政府機関との技術交流を行った。
- ・ 10 月に国立研究開発法人科学技術振興機構のさくらサイエンスプログラム事業を活用、中国浙江省から地方省職員等 24 名を招聘し、県関係機関、企業、副知事表敬、県内技術士との交流を行った。
- ・ 定例委員会を 3 回（6 月、10 月、3 月）開催した。

⑦ 地域社会貢献委員会

今後の活動についての検討会を（7 月、9 月、11 月）に開催した。

「いちかい浮島プロジェクト」活動として 9 月の宇都宮大学コラボレーションフェアに出展した。

⑧ 防災支援委員会

年 4 回の委員会の他、8 月の関東甲信県支部防災連絡会議、7 月の県社協主催災害関係会議に参加し情報交換をした

3) 群馬県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 7 月 18 日に群馬県支部全体会合（出席者 17 名）を開催した。
- ・ 群馬県支部役員会を隔月で 6 回開催、重要事項の審議を行った。
- ・ 総務委員会、企画研修委員会、広報委員会を必要に応じて役員会開催と同時に実施した。

② 行事

- ・ CPD 講演会を Web 講演会として 2 回開催した。
- ・ CPD 講演会は、7 月 18 日（39 名が参加）、2026 年 2 月 19 日（39 名が参加）に開催した。
- ・ CPD 見学会を 10 月 17 日に埼玉県支部と共催で「旧碓氷線に見る鉄道歴史遺産」をテーマにの研修見学会を実施した。（34 名が参加）。

③ その他

- ・ 災害時の被災者等支援のための各士業団体相互協力に関する協定に基づき、9月に講演と意見交換のための研修会に参加。
- ・ 会報第30号を5月、第31号を8月に発行した。

4) 埼玉県支部

「技術の力で地域の発展に貢献」(支部のスローガン)を軸に、目標を「中小企業のイノベーションを手助けできる埼玉県支部となる」に定め、策定した10年先までのマイルストーンに基づき、「連携促進」「技術士DB」の2グループで活動中。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・ 技術士試験合格者祝賀会:5月10日、新都心ビジネス交流プラザにて開催。祝辞、各委員会活動報告、特別講演「組織と技術者倫理」、懇親会を実施。
- ・ 年次大会:7月19日、新都心ビジネス交流プラザにて開催。支部長挨拶、来賓挨拶、各委員会活動報告、講演1「“もったいない”を“価値”に変える 株式会社浜屋の取組」、講演2「日本技術士会 DEI 推進宣言について」、懇親交流会を実施。
- ・ 技術士研究業績発表大会・新年会:1月10日、新都心ビジネス交流プラザにて開催。5名の技術士が発表後、新年会を実施。
- ・ 役員会:役員会を偶数月6回と7月に開催、議案・報告事項等を審議し決済。奇数月は支部長、委員長参加の幹部会を6回開催、計13回実施。
- ・ 委員会:5委員会で計69回開催、その他の会合(イベント準備等)を57回実施。

② 行事(CPD講演会、見学会)

- ・ CPD講演会を14回、見学会を4回開催。参加者は延べ553名。

③ その他

- ・ 技術士制度説明会:4月8日埼玉工業大学、5月14日埼玉大学、26日東洋大学(川越)、6月3日ものづくり大学、20日SAITEC(川口)、7月15日東洋大学(朝霞)、3月14日新都心ビジネス交流プラザ、24日東洋大学(鶴ヶ島)にて実施。
- ・ 理科教室:6月7日タイムこども食堂、7月22日大宮北小学童保育、8月2日日進小学童、10日女子中高生夏の学校2025、10月4日タイムこども食堂にて開催。親子見学会:3月28日埼玉県防災学習センターで開催。
- ・ さいしんビジネスフェア:6月11日(リアル出展)41件のブース対応実施、内3件のコンタクト対応案件が得られた。
- ・ かわごえ産業フェスタ:11月15,16日に「ビジュアルでみる川越いもと三富新田」を出展。
- ・ さいしんコラボ産学官技術課題相談会:1月20日実施8名が参加、7件の案件に対応。
- ・ 彩の国産業活性化交流会:11月28日まるまるひがしにほん東日本連携センターにて開催。DXを通じて産学官・技術士交流をテーマに、講演1「挑戦が当たり前になる職場へ～町工場が挑んだ業務イノベーション～」講演2「まったなしの老朽化、で どうする?」、1件の技術士発表の後、DXに対するQ&A実施。
- ・ 彩の国ビジネスアリーナ2026:11月13~27日(オンライン)、11月18,19日(リアル出展)45件のブース対応実施、内3件のコンタクト対応案件が得られた。
- ・ 広報誌「彩の技術士」を4月、10月の2回発行。

## 5) 千葉県支部

千葉県支部は、所属会員へのサービスと社会貢献を2本柱として活動を推進した。

### ① 支部における年次大会・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、7月12日にハイブリット形式で開催し、活動状況、会計報告、2025年度の計画について説明した。
- ・各種会合は、ハイブリット方式も含めて実施。役員会は臨時も含めて13回、委員会は全体で78回開催した。
- ・ZOOMを活用した会議や講演会が定着し、有効に機能した反面、人的交流の機会が減少した。この対策として交流会を2回実施、人脈構築に有効と好評であり今後も継続する。
- ・防災支援活動は本部防災委員会、千葉県災害復興支援士業ネットワークとの連携活動を実施した。士業ネットワークの会合で、県内大規模災害に対して、士業が連携して出来る活動について意見交換した。また、25年度も船橋市民活動フェアにて防災教育の寸劇を上演し、好評であった。
- ・科学教育支援として、青少年のための科学の祭典等に出展すると共に、中学・高校に対する出前講座を5行、32回実施した。千葉大学主催の高校生理科研究発表会に指導員参画した。千葉市教育委員会理科教育プログラムとして、公民館・小学校子ども教室・アフタースクールの講師として参画した。

### ② 講演会

- ・講演会・見学会はハイブリット方式も含めて、23回実施した。
- ・技術士第一次、第二次試験合格者祝賀講演会及び祝賀会を6/7に実施した。
- ・防災講演会を千葉市及び千葉県災害復興支援士業ネットワークの後援を得て、千葉県弁護士会との共催で、9月に実施した。

### ③ 見学会

- ・9月に銚子電鉄の車両基地、3月に京成電鉄の車両基地を訪問し、鉄道車両のメンテナンス、スカイライナーの点検について見学した。なお3月の京成電鉄車両基地の見学は、学生6名が参加した。

## 6) 神奈川県支部

役員会、委員会等はリモート(RE)、講演会はハイブリッド(HB)を基本として開催した。

### ⑤ 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・第14回年次大会及び特別講演会(HB):7月31日波止場会館にて開催
- ・2026新年特別講演会(HB)及び賀詞交歓会(対面):1月22日波止場会館にて開催
- ・役員会および幹部会議、各12回開催(RE、1月役員会は対面開催)
- ・総務委員会(3小委員会合同)及び7小委員会、各11回開催(RE、対面)

### ⑥ 講演会

- ・テクニカルショーヨコハマ2026出展、ブースにてミニセミナー開催(対面):2月4~6日パシフィコヨコハマ(3日間開催→ミニセミナー25回開催)
- ・震災対策技術展横浜出展及び講演会開催(本部防災支援委員会共同出展):2月5~6日パシフィコヨコハマ
- ・講演会:CPD講座11回、テクノセミナー3回、情報交流の会5回、地域産業活性化研究会1回、MIX技術士交流会3回(対面)、技術士開業及び業務開拓研修会(初級、中級、実践コース)計3回(対面)、技術士セミナー、技術士への道ガイダンス計2回(HB)

- ・ 計 31 回開催（対面以外はHB）
- ⑦ 見学会：MIX 技術士交流会にて「リニア神奈川県駅(仮称)」、地域産業活性化研究会 2025in 川崎にて「慶應義塾大学ハプティクス研究センター」計 2 回開催。
- ⑧ その他
  - ・ 夏休み理科教室、青少年のための科学の祭典 2024 等の理科支援活動 13 回実施（対面）
  - ・ ビジネスオーディション 2026 にて神奈川県支部賞を授与
  - ・ 技術士第一次／二次試験新合格者祝賀会：6 月 7 日波止場会館にて開催（HB）
  - ・ 技術士第一次／二次試験神奈川試験会場の運営を計 2 回実施

## 7) 山梨県支部

ほぼ例年通りに活動することができた。

- ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動
 

5 月 10 日に年次全体会合を開催し 前年度事業実績・会計報告、今年度事業計画・予算計画を報告した。幹事会は計 11 回開催し、年度計画と予算、各行事の実行計画と手配等を確認・進行した。
- ② 行事
  - ・ CPD としての講演会 3 回に加え、会員 6 名による研究発表会（15 分ゼミナール）1 回を開催した。講演会は基本的に甲府市内の会場で開催したが、希望があった場合は ZOOM を利用したオンライン参加も可能とした。
  - ・ 9 月 8 日に山梨県産業技術センター 富士技術支援センター イノベーション支援棟見学会を開催した。県内産業の支援施策について改めて認識することができて有意義であった。
  - ・ 10 月 6 日に山梨県産業技術支援交流会を開催し、技術士会を含む県内 8 組織が活動を報告した他、関東経済産業局の本城裕司係長による基調講演をいただき、参加者から好評を博した。
- ③ その他
  - ・ 2026 年 3 月 1 日 支部報第 14 号を発行し、支部員および関係機関に配布した。
  - ・ 工業系高校生基幹産業担い手育成事業連携推進委員会の委員を受託した。
  - ・ 山梨県オープンイノベーション推進ネットワーク会議の委員を受託した。
  - ・ 山梨県医工連携イノベーション推進事業のアドバイザーを受託した。
  - ・ 山梨県弁護士会を中核とする県内士業団体が協力して災害の防止、対応にあたる「山梨県大規模災害対策士業連絡協議会」設立に向けて準備を進めた。

## 8) 長野県支部

各種会議および講演会については、会場集合方式、リモート方式、ならびに両者を併用したハイブリッド方式により実施した。

- ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動
  - ・ 年次大会を 7 月 5 日に開催し、前年度の事業実績および会計決算、新年度の事業計画および予算等について報告した。併せて、年次大会終了後に「技術士第一次・第二次試験合格記念 CPD 講演会」および「合格者交流会」を開催した。
  - ・ 支部幹事による役員会を計 6 回開催した（うち 4 回はオンライン会議）。
  - ・ 役員会以外の連絡・調整については、メール等により情報共有および意見交換を行った。

- ・ 役員間の情報共有の円滑化を図るため、Teams（無料版）等のコミュニケーションツール導入の検討を開始した。
- ② 行事
- ・ 「技術士第一次・第二次試験合格記念 CPD 講演会」（ハイブリッド方式）および「合格者交流会」を、7月5日に年次大会終了後に開催した。
  - ・ 県下各地区（東信・北信・中信・南信）において CPD 研修会を計4回開催した（会場集合方式2回、ハイブリッド方式2回）。なお、東信 CPD は県内技術士による技術発表会として実施し、北信 CPD は信州大学との共催により実施した。
  - ・ 防災 CPD 研修会として、「森林の存在が崩壊規模に及ぼす影響について」をテーマとした講演会を開催した（ハイブリッド方式）。
  - ・ JABEE 認定校である国立長野工業高等専門学校において、「技術資格セミナー」を11月12日に開催した（講師：長野県支部幹事）。また、「技術士説明会」を1月16日に開催した（講師：長野高専 OB・OG 技術士）。
- ③ その他
- ・ 「工事監査（工事技術調査）」会員に、長野県支部4名が登録され、講習会に参加した。
  - ・ 支部会報第10号を1月に発行し、支部会員および関係機関等へ配付した。

以上